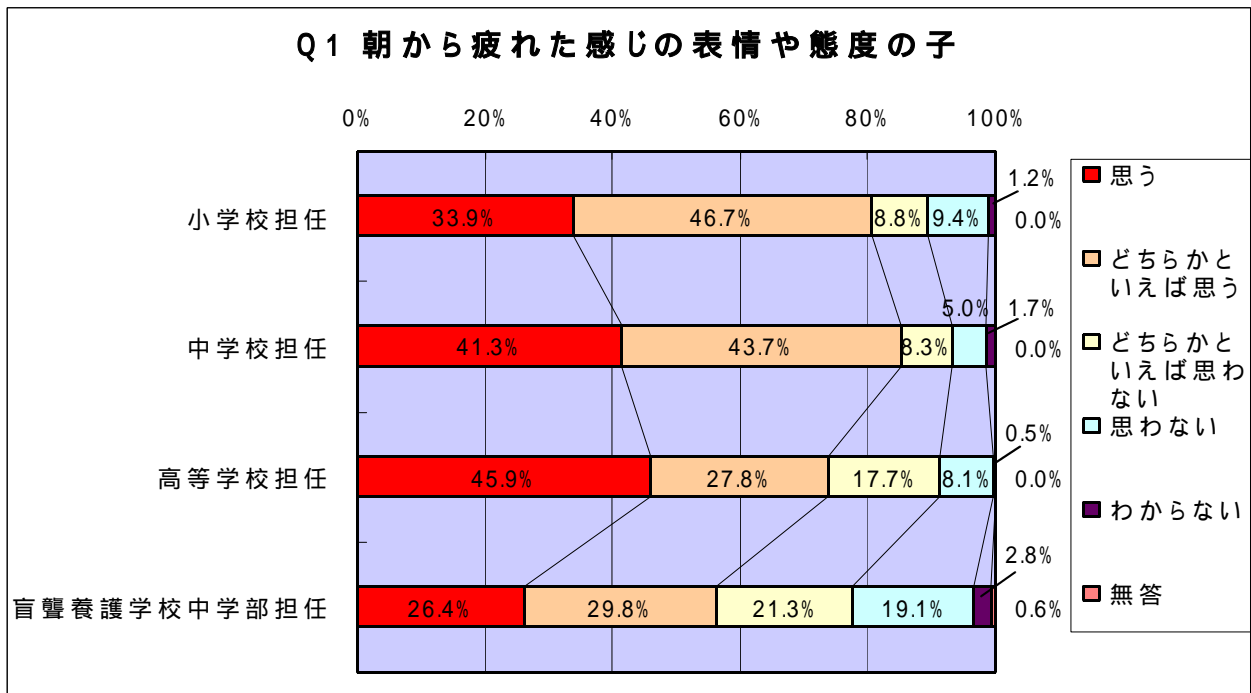


1 最近の傾向として、次のような児童生徒が多くなったと思いますか？下のQ1～Q4の質問について、あなたの考えに近いものを1～5の選択肢から一つ選んで、お答えください。

小・中・高・盲聾養

Q1 朝から疲れた感じの表情や態度の子

1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない



小担任では、「思う」という回答が約34%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると8割を超え、肯定的な回答が目立っている。

中担任では、「思う」が41.3%と小担任より多く、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると85%と、肯定的な回答が他の校種と比較して一番多くなっている。

高担任では、「思う」という回答が中担任よりさらに増え約46%であるが、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると、肯定的な回答が約74%と、小担任より少ない。一方、否定的な回答は約25%と全体の1/4を占めている。

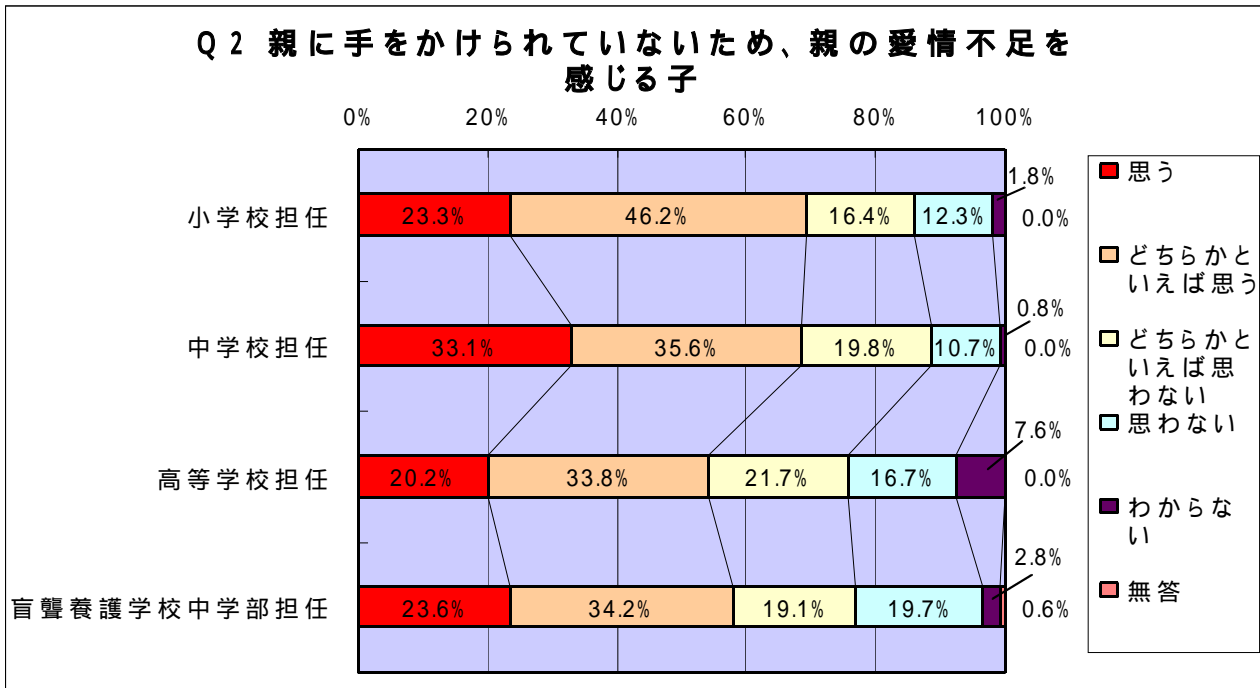
盲聾養担任は、「思う」が26.4%と他の校種より少なく、「どちらかといえば思う」という回答を合わせても半数を超える程度である。否定的な回答が4割を超えている。

全体的にみると、小・中担任における肯定的な回答が目立つが、高担任では、「思う」という回答の割合が多くなっている。この要因について、ふだんの生活習慣との関連を中心に児童生徒の実態を把握することが求められる。

参考：【関連資料：児童生徒Q3「朝起きた時、疲れたと感じることがあるか」  
児童生徒Q4「朝起きた時、学校に行きたくないと思うことがあるか」  
児童生徒Q5「朝食を食べないで学校に行くことがあるか」】

Q 2 親に手をかけられていないため、親の愛情不足を感じる子

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない



小担任では、「思う」という回答が約23%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると約7割となり、肯定的な回答が目立っているが、否定的な回答も約29%みられる。

中担任では、「思う」が33.1%と小担任より多いが、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると7割に届かず、小担任より若干少ない。否定的な回答も小担任より多く3割を超えている。

高担任では、「思う」という回答が約20%と少なく、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると、肯定的な回答が約54%と他の校種と比較して少ない傾向にある。一方、否定的な回答は約38%と小・中担任より多くなっている。

盲聾養担任は、「思う」が23.6%みられ、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると57.8%、否定的な回答も高担任同様に4割近い。

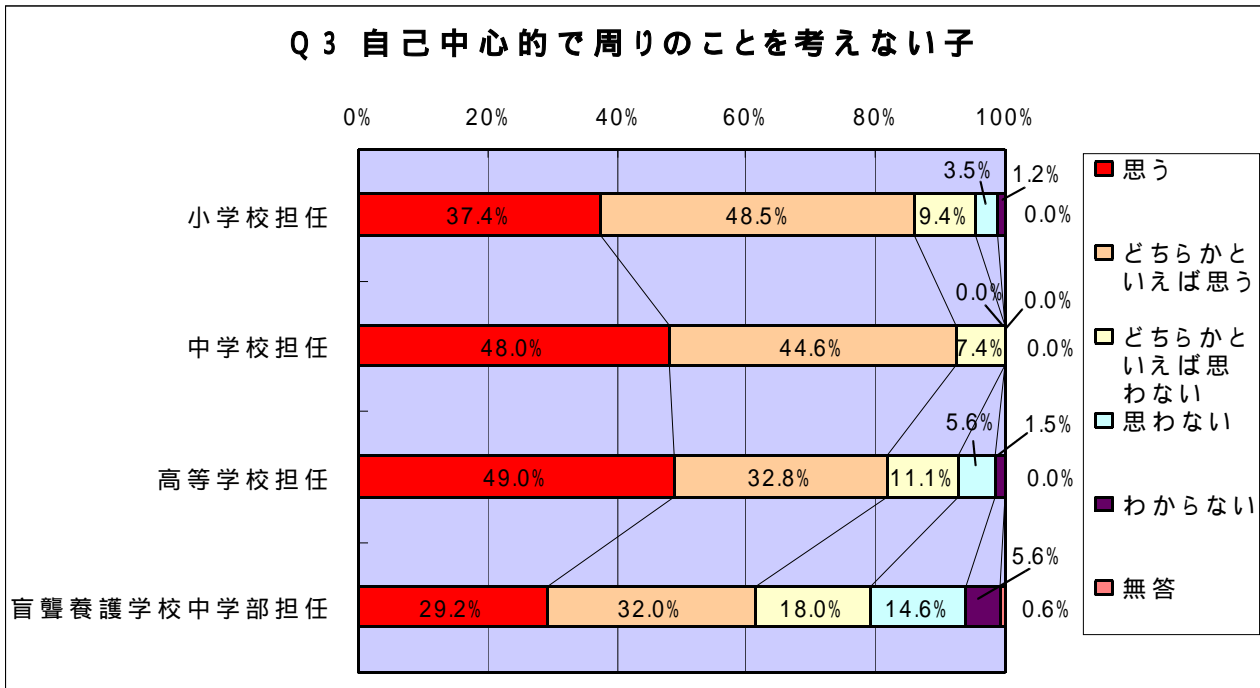
全体的にみると、小・中担任における肯定的な回答が多く、中担任では「思う」という回答が目立っている。手をかけることがより求められる小・中学校の年代において、肯定的な回答多くなっている。

手をかけられていないと感じる内容、手をかけて欲しいとする内容について把握しておくことが求められる。

参考：【クロス集計：Q 6 「学校が発信する情報を家庭はきちんと受け止めているか」】

Q 3 自己中心的で周りのことを考えない子

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない



小担任では、「思う」という回答が37.4%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると8割を超え、肯定的な回答が目立っている。

中担任では、「思う」が48%と小担任より多く、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると9割を超え、高い割合となっている。否定的な回答は7.4%みられる。

高担任では、「思う」という回答が49%と半数近くを占め、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると、肯定的な回答が8割を超えるが、中担任より少ない。否定的な回答は約17%と小担任より多い。

盲聾養担任は、「思う」が約3割みられ、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると5割を超えるが、他の校種より少ない。否定的な回答は約23%である。

全体的にみると、中担任における肯定的な回答が目立ち、小・高担任でも8割を超えている。

校種・発達段階において、自己中心的な考え方や態度等の違いが想定されることから、その内容について把握しておきたい。

参考：【クロス集計：Q 6 「学校が発信する情報を家庭はきちんと受け止めているか」

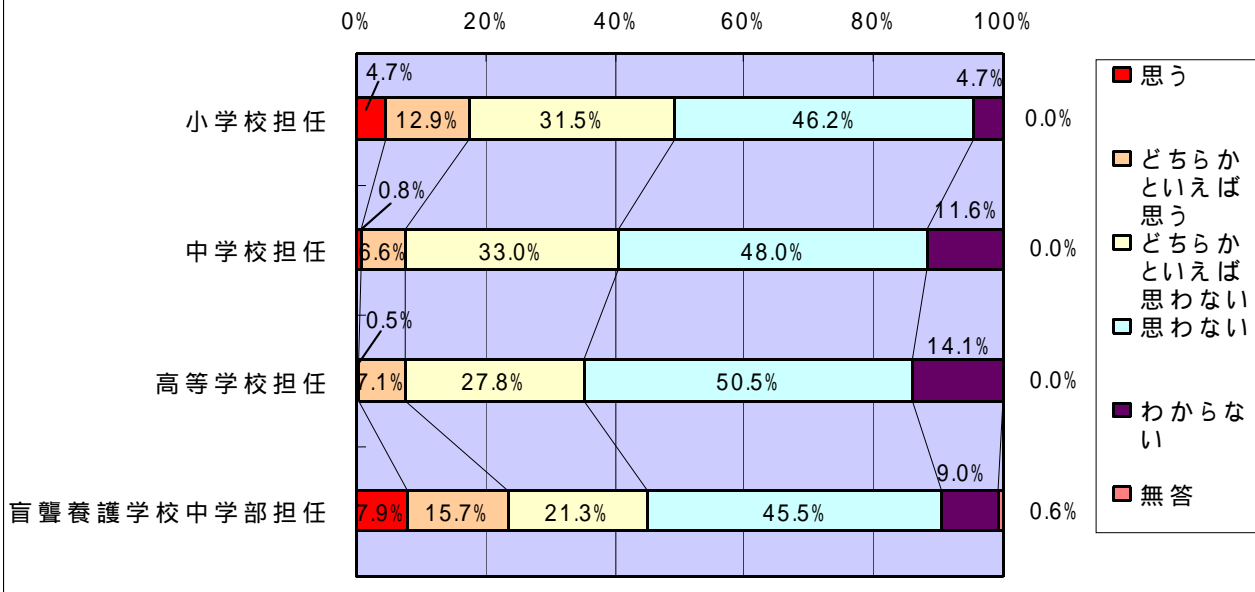
Q 8 「自分の子供しか見ていない親が多い」】

参考：【関連資料：担任Q16「学級の乱れ：学校や学級の決まりを守らない子供」】

Q 4 家で厳しく叱られたり、暴力を受けたりしていると思われる子

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
 4 思わない                      5 わからない

Q 4 家で厳しく叱られたり、暴力を受けたりしていると思われる子



小担任では、「思う」という回答が4.7%、「どちらかといえば思う」という回答が12.9%で、肯定的な回答を合わせると約18%程度であるが、否定的な回答が約78%と大半を占めている。

中担任では、「思う」が0.8%をわずかで、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると7.4%と大変に低い割合となっている。一方、否定的な回答は8割を超え、回答の大半を占めている。

高担任では、「思う」という回答が0.5%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると、肯定的な回答は7.6%である。否定的な回答は約78%と高い割合である。

盲聾養担任は、「思う」が7.9%みられ、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると23.6%となり、他の校種より多くなっている。否定的な回答は約67%である。

全体的に否定的な回答が大半を占めているが、肯定的な回答は、小担任と盲聾養担任に目立っている。

親の思いとは異なる行動をとったり、親の思いをまだ十分に理解できないことも多い年代において、設問のような行動をとることが多いのではないかと予想される。その内容について、さらに、担任がそのように判断した基準等についても把握しておきたい。

参考：【関連資料：児童生徒Q26「今まで、厳しい叱られ方をしたことがあるか」

保護者Q27「テレビ等で報道されている児童の虐待について、自分を振り返ってどう思うか」】

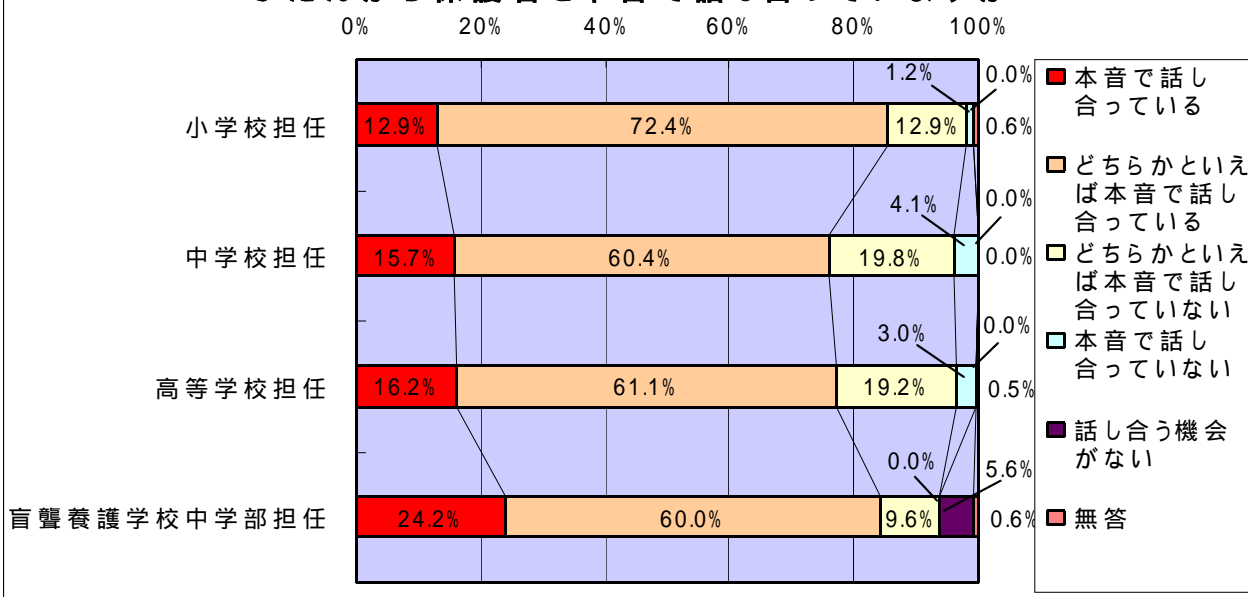
## 2 児童生徒の家庭や保護者などについて、次の質問にお答えください。

小・中・高・盲聾養

Q5 児童の生活、学習などのことについて、あなたは、ふだんから保護者と本音で話し合っていますか？

- 1 本音で話し合っている      2 どちらかといえば本音で話し合っている  
3 どちらかといえば本音で話し合っていない      4 本音で話し合っていない

Q5 児童・生徒の生活や学習などのことについて、あなたはふだんから保護者と本音で話し合っていますか



小担任では、「本音で話し合っている」が12.9%、「どちらかといえば本音で話し合っている」という回答が72.4%で、肯定的な回答を合わせると85%を超え、大半を占める。否定的な回答が約14%と少ない。

中担任では、「本音で話し合っている」が15.7%、「どちらかといえば本音で話し合っている」という回答が60.4%で、合わせると全体の3/4を超えている。否定的な回答は2割を超え、比較的多い。

高担任では、中担任と傾向が似ており、「本音で話し合っている」「どちらかといえば本音で話し合っている」を合わせると、全体の3/4を超える。否定的な回答は2割を超える。

盲聾養担任は、「本音で話し合っている」が24.2パーセントと他の校種と比較して多く、「どちらかといえば本音で話し合っている」を合わせると、約84%で小担任とほぼ同じ割合となっている。否定的な回答は1割に満たないが、「話し合う機会がない」という回答が5.6%みられる。

全体的に、小・盲聾養担任を中心に肯定的な回答が大半を占めている。否定的な回答は、中担任と高担任に目立っている。盲聾養担任にみられる「話し合う機会がない」という回答が特徴的である。

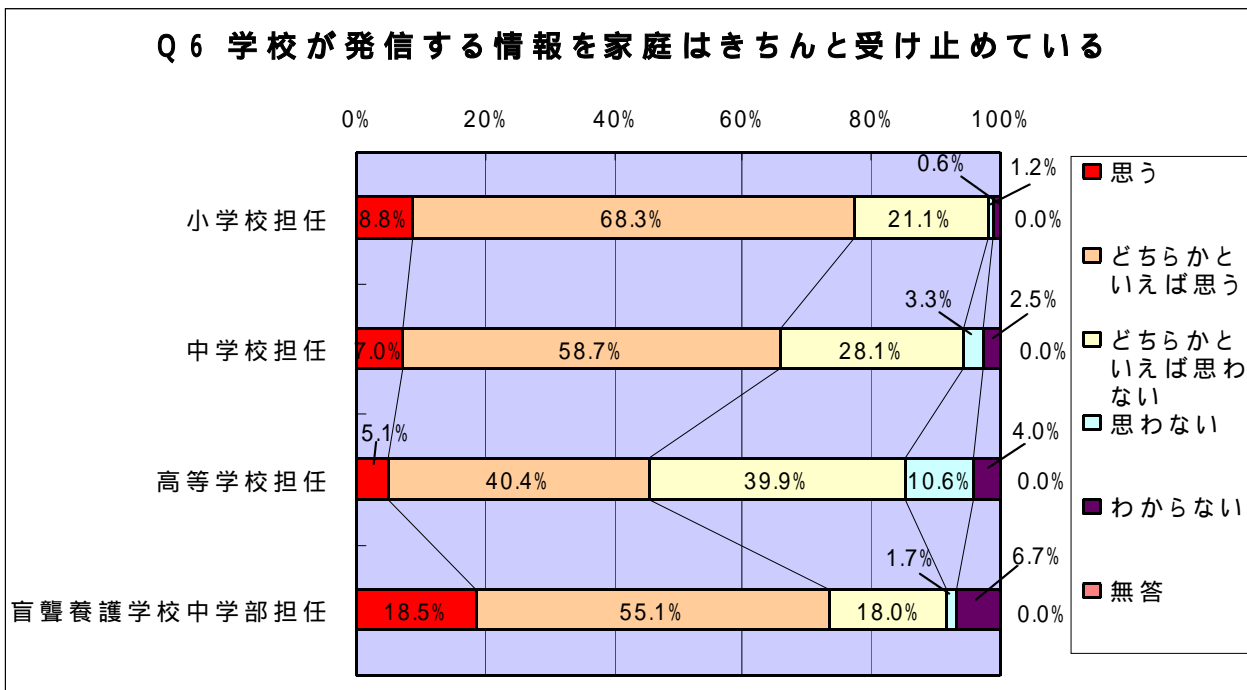
中担任及び高担任にみられる否定的な回答の要因について、把握することが求められる。また、盲聾養担任にみられる「話し合う機会がない」という回答について、生徒が寄宿舎生活であることによるものか、別の要因なのか、実態を把握しておきたい。

最近の保護者や家庭の傾向について、次のように思いますか？

小・中・高・盲聾養

Q 6 学校が発信する情報を家庭はきちんと受け止めている

1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
 4 思わない                      5 わからない



小担任では、「思う」という回答が8.8%、「どちらかといえば思う」という回答が68.3%で、肯定的な回答を合わせると8割近く、おおむね肯定的な回答である。否定的な回答も2割程度ある。

中担任では、「思う」が小担任より減って7%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると約66%と肯定的な回答が全体の2/3の割合となっている。一方、否定的な回答は3割を超えている。

高担任では、「思う」という回答が5.1%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせても約45%と半数に届かない。一方、否定的な回答は半数を超えている。

盲聾養担任は、「思う」が18.5%みられ、他の校種と比較して高い割合となっており、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると7割を超える。否定的な回答はおおよそ2割と他の校種より少ない。

全体として、肯定的な回答は、小担任と盲聾養担任において多い傾向があるが、特に高担任では半数に届かず、否定的な回答が半数を上回っている。盲聾養担任の「思う」という回答が目立って多い。

校種による違いが大きくみられる。この要因が発信する側にあるのか、受け取る側にあるのか十分に検討して対応を考えることが求められる。

参考：【クロス集計：Q 2「親に手をかけられていないため、愛情不足を感じる子」

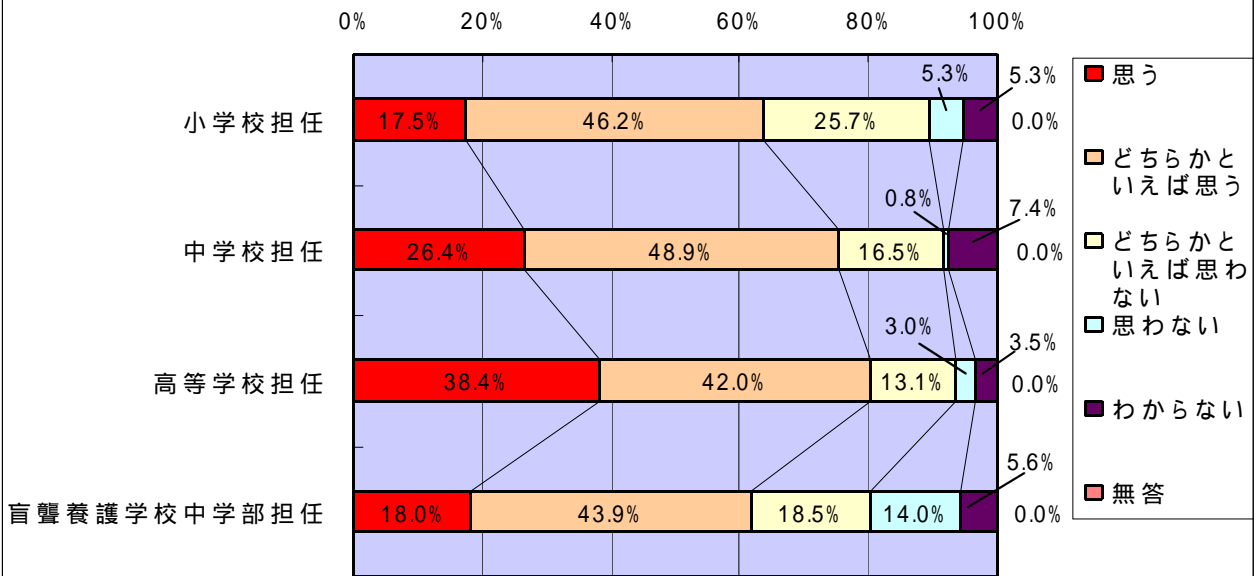
Q 3「自己中心的で周りのことを考えない子」】

【関連資料：保護者Q14「『学校の方針等を保護者に伝えること』に満足しているか」】

Q7 子供と保護者との対話の時間が少ない

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない

Q7 子供と保護者との対話の時間が少ない



小担任では、「思う」という回答が17.5%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると6割を超え、肯定的な傾向にある。一方で、否定的な回答も3割を超えている。

中担任では、「思う」が小担任より多く26.4%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると肯定的な回答が全体の3/4を占めている。否定的な回答は約17%である。

高担任では、「思う」という回答が38.4%、「どちらかといえば思う」という42%の回答を合わせると全体の8割を超え、おおむね肯定的な回答となっている。

盲聾養担任は、小担任と似た傾向にあり、「思う」が18%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると6割を超え、肯定的な傾向にある。否定的な回答は2割を超えている。

全体として、肯定的な回答は、中担任と高担任において多い傾向があるが、小担任と盲聾養担任では6割を超える程度である。否定的な回答は、小担任が多く、盲聾養担任も目立つ。

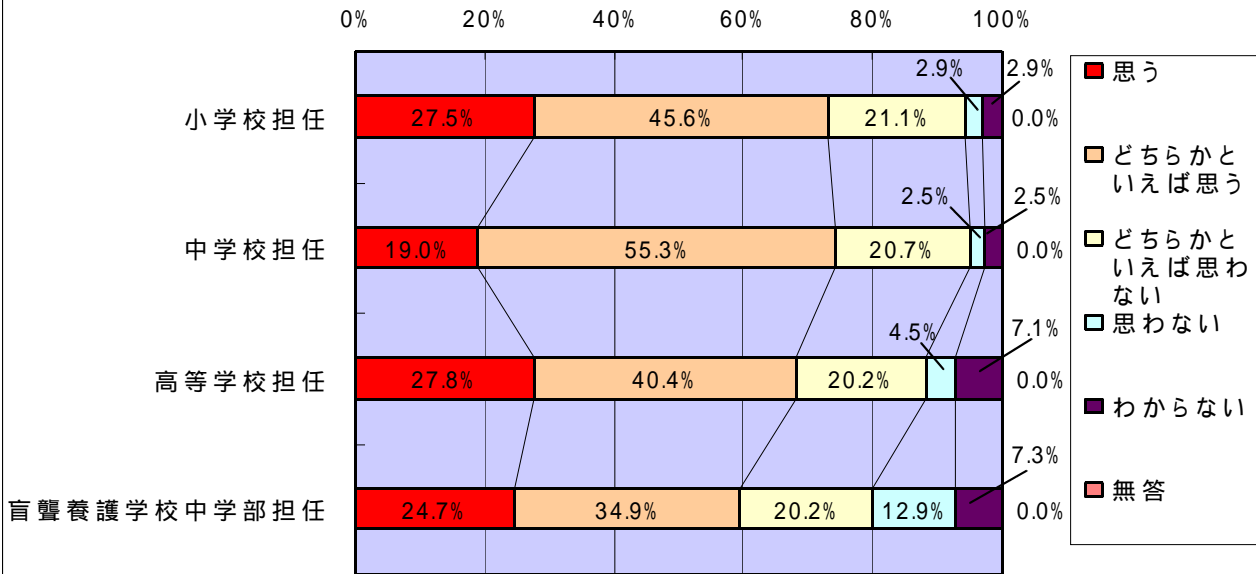
校種による違いが大きくみられる。成長とともに親との会話が少なくなることは想定されることである。この状況において、児童生徒はどのように感じているか、困ることはないか、担任の配慮は必要か等、児童生徒の実情を把握して対応を考えることが求められる。

参考：【関連資料：児童生徒Q21「家族と話をする時、どんな内容が多いか」】

Q 8 自分の子供しか見ていない親が多い

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない

Q 8 自分の子供しか見ていない親が多い



小担任では、「思う」という回答が27.5%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると7割を超え、おおむね肯定的な傾向にある。否定的な回答は24%である。

中担任では、「思う」が小担任より少なく19%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると小担任と同程度の割合となり、全体の3/4程度が肯定的な回答である。否定的な回答は2割を超える。

高担任では、「思う」という回答が27.8%、「どちらかといえば思う」という約40%の回答を合わせると全体の7割近く、肯定的な回答が多い。

盲聾養担任は、「思う」が24.7%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせるとおよそ6割となり、肯定的な回答が多い。一方、否定的な回答は3割を超えている。

全体として、肯定的な回答は、小・中・高担任において7割前後、盲聾養担任では6割を超え、肯定的な回答傾向にある。一方、否定的な回答は、どの校種も2割以上みられ、特に盲聾養担任で3割を超える。

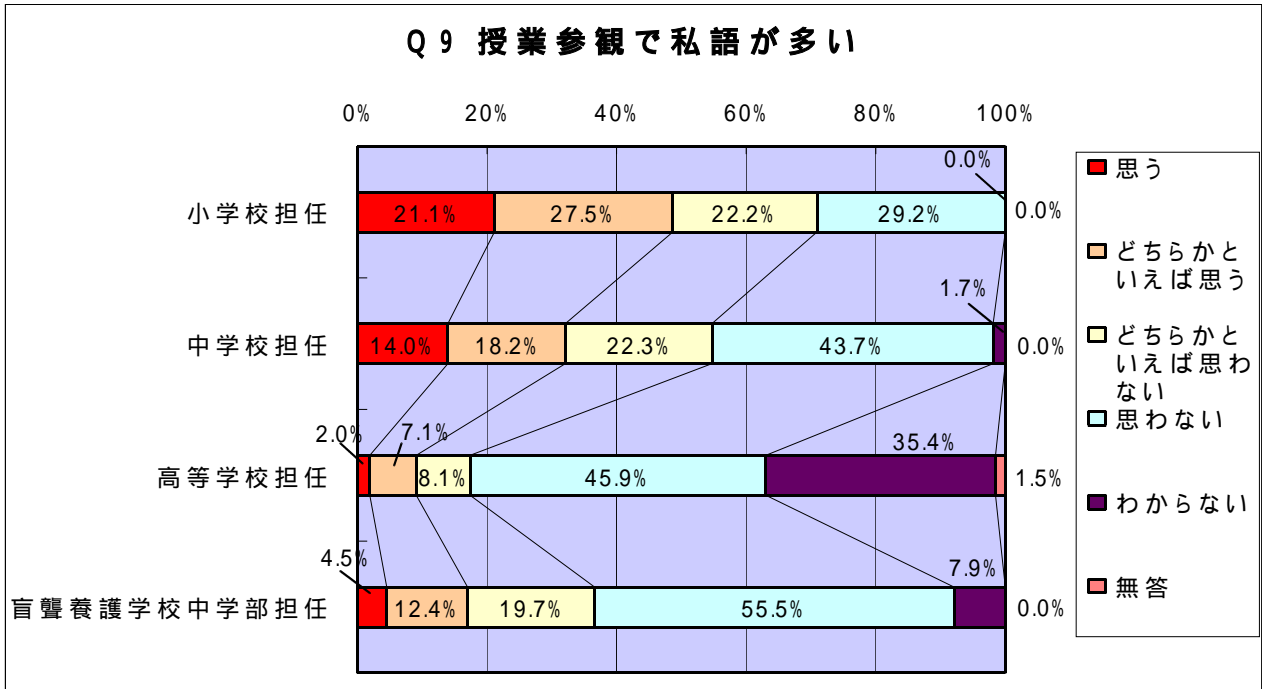
自分の子供しかみていないと感じる親に対して、どのような点が問題であるか、また、その子供の態度等との関わりを把握して、個別に、あるいは懇談会等で話をしていくことが必要である。

参考：【クロス集計：Q 3 「自己中心的で周りのことを考えない子」】



Q 9 授業参観で私語が多い

- 1 思う                      2 どちらかといえば思う                      3 どちらかといえば思わない  
4 思わない                      5 わからない



小担任では、「思う」という回答が21.1%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると5割程度である。否定的な回答も5割ほどで、肯定的回答と否定的回答が二分している。

中担任では、「思う」が小担任より少なく14%、「どちらかといえば思う」という回答を合わせると約30%が肯定的な回答である。一方、否定的な回答は約65%で、否定的な傾向にある。

高担任では、「思う」「どちらかといえば思う」という回答を合わせても9%程度であるのに対して、否定的な回答は54%と否定的な傾向にある。

盲聾養担任でも、「思う」「どちらかといえば思う」という回答を合わせても約17%で、否定的な回答は全体の3/4を超え、否定的な傾向がみられる。

全体として、高担任をはじめとして否定的な回答が多いが、小担任では、肯定と否定がほぼ半数である。

校種による差がみられるが、親の意識にとどまらず、親の年代、親の学校に対するイメージ、教室の雰囲気、また、校種による参観の機会の回数との関わりなど、様々な要因が想定されることから、実態の把握をとおして対応を考えていくことが求められる。

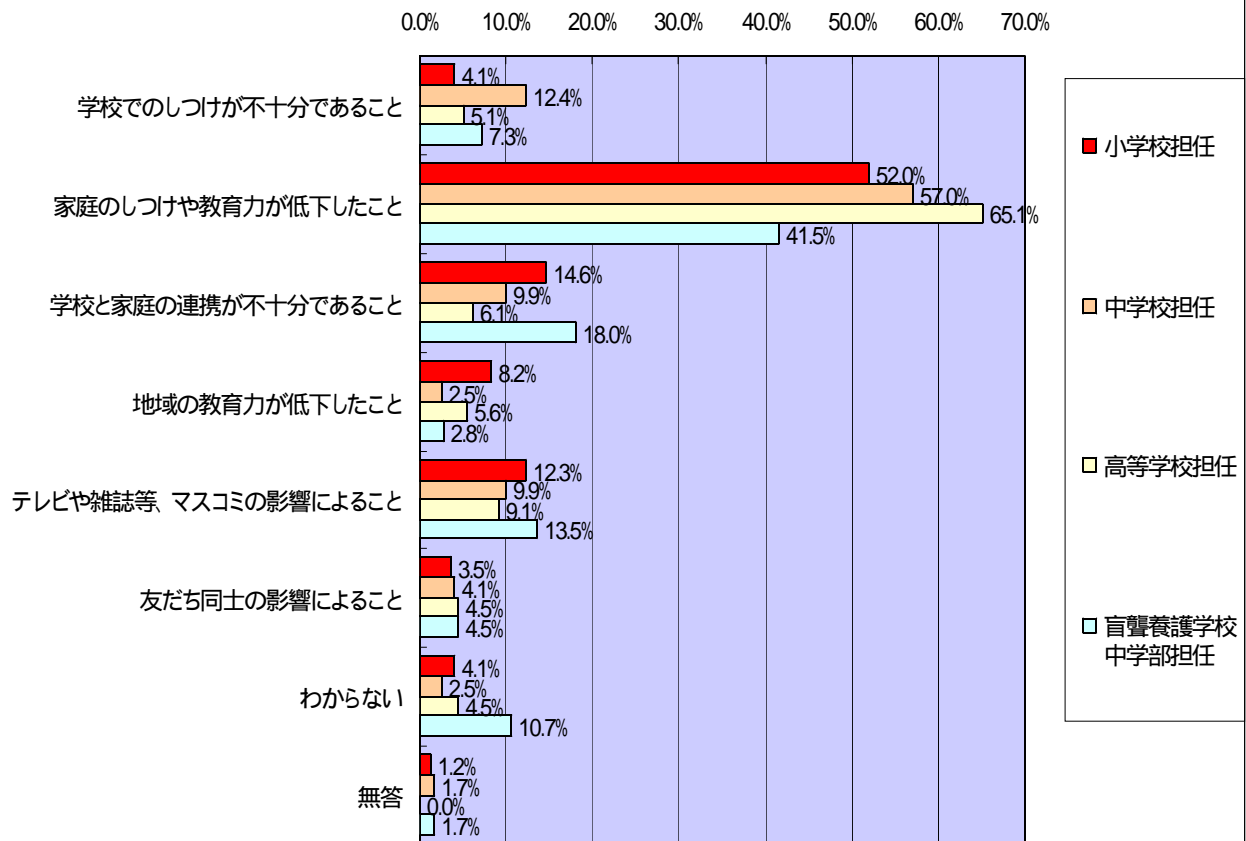
参考：【関連資料：担任Q 8「自分の子供しか見ていない親が多い」】

小・中・高・盲聾養

Q10 児童生徒の判断の仕方や生活・行動でよくない姿が見られるとき、その主な原因は何だと考えますか？次の中から、あなたの考えに最も近いものを一つ選んで答えましょう。

- 1 学校での指導が不十分であること
- 2 家庭のしつけや教育力が低下したこと
- 3 学校と家庭の連携が不十分であること
- 4 地域の教育力が低下したこと
- 5 テレビや雑誌等、マスコミの影響によること
- 6 友だち同士の影響によること
- 7 わからない

Q10 子供たちの判断の仕方や生活・行動でよくない姿が見られる時、その主な原因は何だと考えますか



小保護者では、「家庭のしつけや教育力の低下」が52%と過半数を占め、次いで「学校と家庭との連携が不十分」が約15%、「テレビや雑誌等の影響」とする回答が約12%となっている。

中保護者では、「家庭のしつけや教育力の低下」が57%と多く、次いで「学校でのしつけが不十分」が12.4%、「学校と家庭との連携が不十分」「テレビや雑誌等の影響」とする回答が約10%となっている。

高保護者は、「家庭のしつけや教育力の低下」が約65%で一番多く、「テレビや雑誌等の影響」とする回答が約9%となっている。

盲聾養護保護者は、「家庭のしつけや教育力の低下」が約42%で、「学校と家庭との連携が不十分」が18%、「テレビや雑誌等の影響」とする回答が約14%となっている。

全体として、「家庭のしつけや教育力の低下」をあげる担任がどの校種でも突出して多く、「学校と家庭との連携」「テレビや雑誌等の影響」における小・盲聾養担任の回答、「学校でのしつけ」における中担任の回答が目立つ。

回答のおよそ半数が、要因として家庭をあげていることを踏まえ、家庭の役割とともに学校の役割について再確認していくことが求められる。

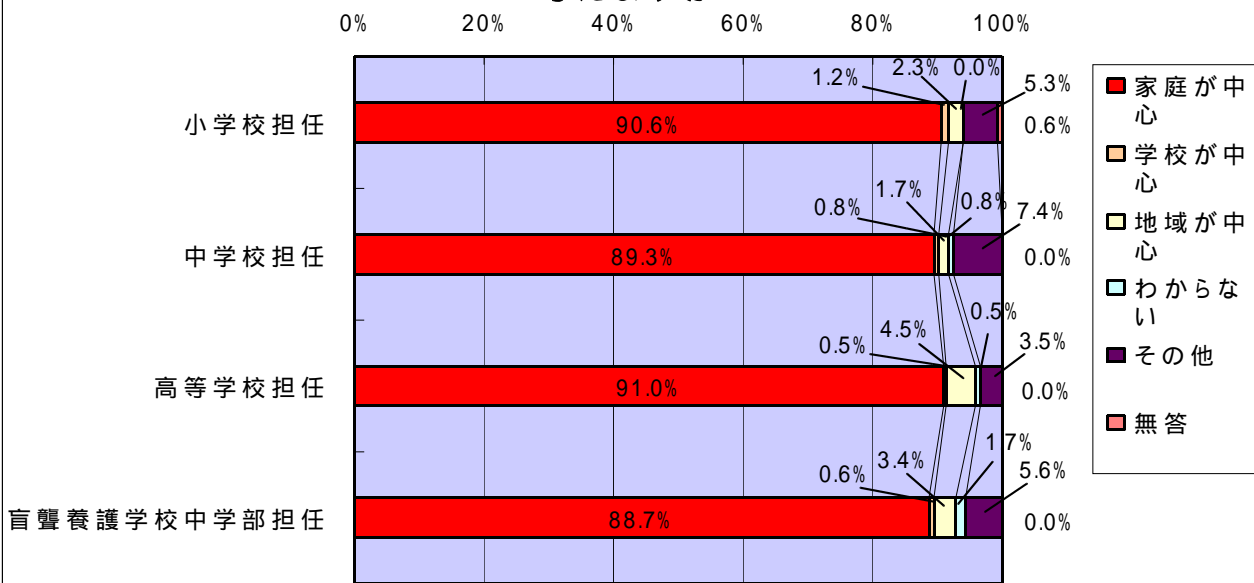
参考：【関連資料：保護者Q20「児童生徒のよくない姿が見られる時の原因は何か」】

## 小・中・高・盲聾養

Q11 子供のしつけは、どこが中心となって行うものと考えますか？次の中から、あなたの考えに近いものを一つ選んで答えましょう。なお、あてはまるものがない場合は、その内容を「5 その他の内容」に簡単に書きましょう。

- 1 家庭が中心                      2 学校が中心                      3 地域が中心  
4 わからない                      5 その他(                      )

Q11 子供のしつけは、どこが中心となって行うものと考えますか



小担任では、「家庭が中心」という回答が9割を超え、「学校が中心」が1.2%、「地域が中心」が2.3%と少ない。その他は5.3%ある。

中担任では、「家庭が中心」が9割近く、「学校が中心」が0.8%、「地域が中心」1.7%と少ない。その他は、7.4%である。

高担任では、「家庭が中心」は9割を超える一方で、「学校が中心」が0.5%、「地域が中心」が4.5%ととても少ない。その他は、3.5%ある。

盲聾養担任でも、「家庭が中心」が9割近く、「学校が中心」が0.6%、「地域が中心」が3.4%と少ない。

その他としては、どの校種の回答においても「学校と家庭」が一番多くみられ、他に「学校、家庭、地域すべて」等の回答がみられる。

どの校種でも、「家庭中心」という回答が9割前後を占め、高担任及び盲聾養担任において、「地域中心」が少数であるが目につく。

しつけの実態として、家庭の責任において行われるべきものが、きちんと子供の身についているかどうか、成長段階との関わりで把握していくとともに、学校としてどのように対応していくか考えていくことが必要である。

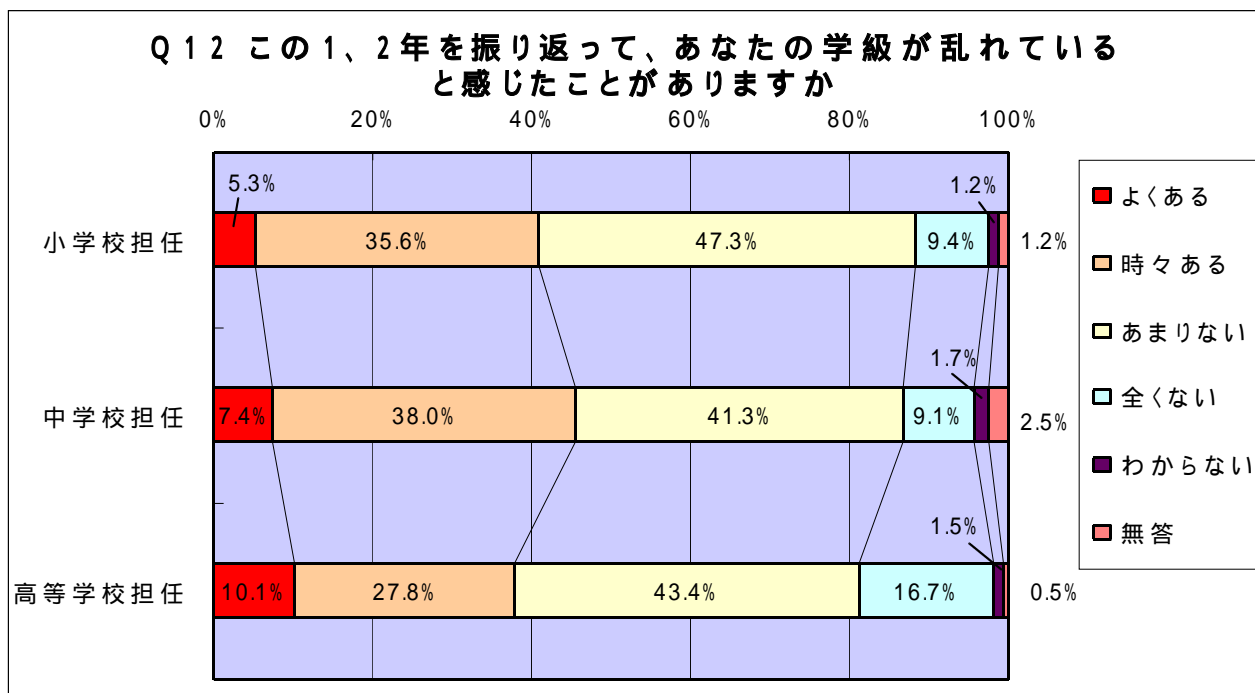
参考：【関連資料：保護者Q22「子供のしつけは、どこが中心となって行うものとするか」】

### 3 学級の様子や学級経営などについて、次の質問にお答えください。

小・中・高

Q12 この1、2年を振り返って、あなたの学級が乱れていると感じたことがありますか？

1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない  
4 まったくない                  5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が5.3%と少なく、「時々ある」を合わせても4割程度と多くはない。否定的な回答が約56%と過半数を占めている。

中担任では、「よくある」が7.4%、「時々ある」が38%と合わせても約45%程度であるが、否定的な回答は半数を超え、否定的な傾向にある。

高担任では、「よくある」が約1割で、「時々ある」を合わせても4割に満たない。一方、否定的な回答は合わせて6割を超え、否定的な傾向にある。

全体的に、肯定的な回答は4割程度であるのに対して、否定的な回答は5割を超えており、「学級が乱れ」について否定的な回答をしている担任が多い。

次のQ13～17の設問の傾向をもとに、考えていきたい。

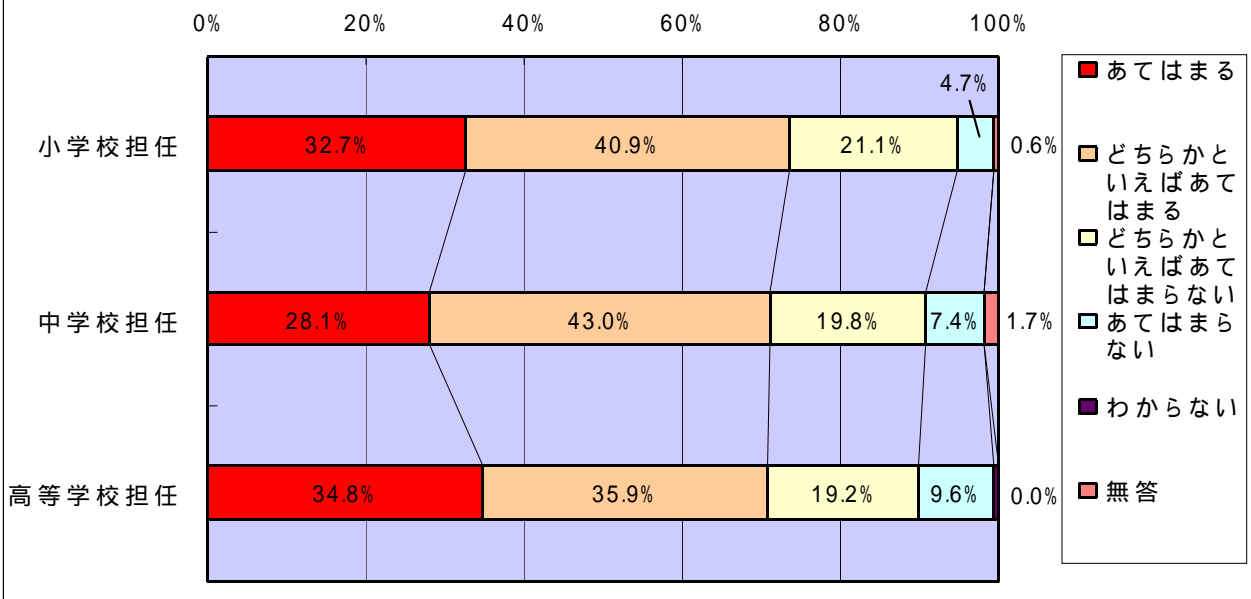
あなたがイメージする乱れた学級の姿について、次の内容はどの程度あてはまると思いますか？

小・中・高

Q13 授業が始まって、教科書等を机の上に出さない

- 1 あてはまる                      2 どちらかといえばあてはまる
- 3 どちらかといえばあてはまらない                      4 あてはまらない
- 5 わからない

Q13 授業が始まって、教科書等を机の上に出さない



小担任では、「あてはまる」という回答が約32%みられ、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると7割を超え、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答が約25%と全体のおよそ1/4程度みられる。

中担任では、「あてはまる」が約28%、「どちらかといえばあてはまる」が43%あり、合わせると7割を超え、おおむね肯定的な傾向といえる。否定的な回答は約27%みられ、小担任より多い割合となっている。

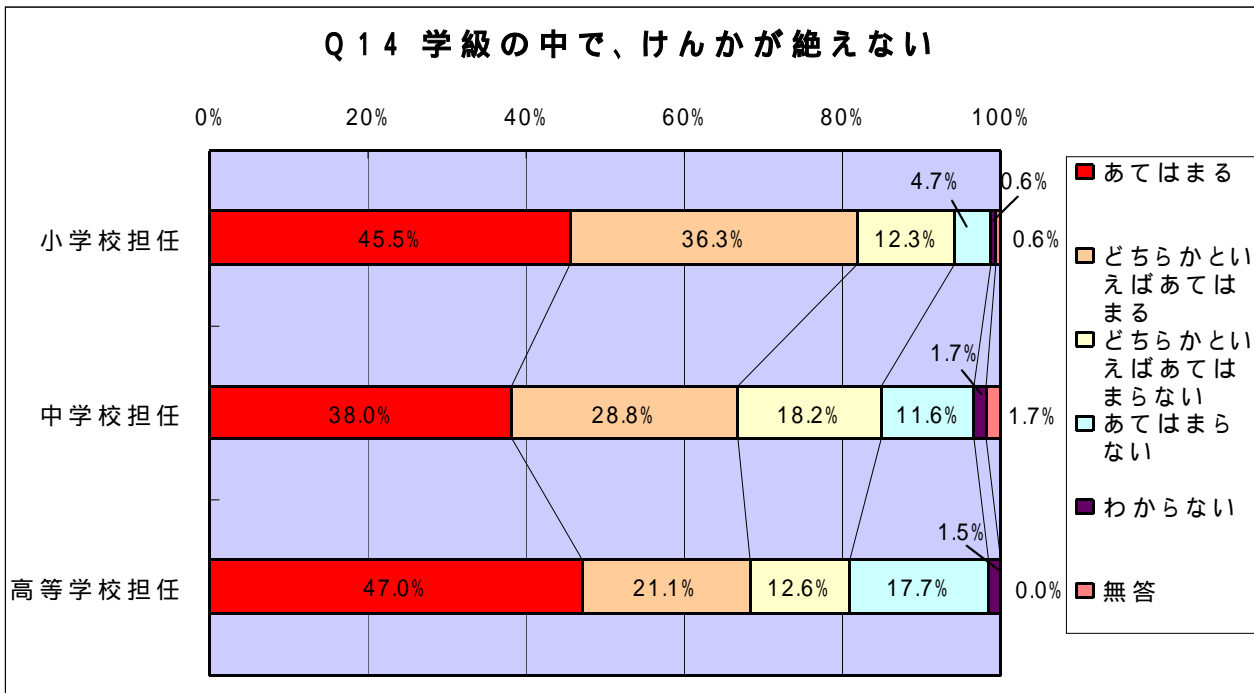
高担任では、「あてはまる」が約35%と多く、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると7割を超える。一方、否定的な回答は合わせて約28%と中担任より多い割合となっている。

全体的に、肯定的な回答は約7割程度で、肯定的な回答傾向であるが、否定的な回答も約25~30%と比較的に多くなっている。

「授業が始まって、教科書等を机の上に出さない」という態度は、授業に臨む態度として不十分といえる行動であり、担任にとって、学級も乱れの判断基準となっていることがうかがえる。

Q14 学級の中で、けんかが絶えない

- 1 あてはまる                      2 どちらかといえばあてはまる  
 3 どちらかといえばあてはまらない                      4 あてはまらない  
 5 わからない



小担任では、「あてはまる」という回答が約45.5%みられ、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると8割を超え、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答が約17%と比較的少ない。

中担任では、「あてはまる」が38%、「どちらかといえばあてはまる」が約29%あり、合わせると6割を超え、肯定的な傾向といえる。否定的な回答は3割近くみられ、小担任より多い割合となっている。

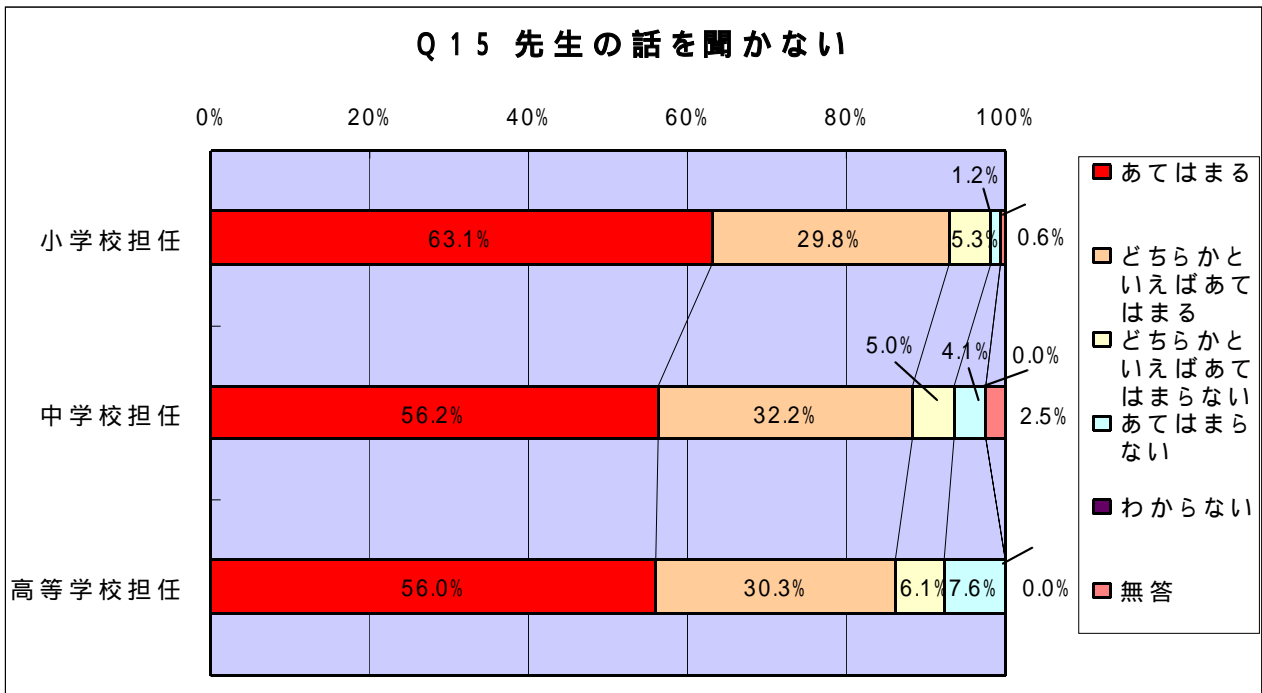
高担任では、「あてはまる」が約47%と多く、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると7割弱である。一方、否定的な回答は合わせて約2割を超え、中担任とほぼ同じである。

全体的に、肯定的な回答は約7～8割で、肯定的な回答傾向であるが、否定的な回答は中保護者と高保護者をはじめとし、校種で差はみられるが、約16～30%と比較的に多くなっている。

「学級内でのけんかが絶えない」という状況について、校種により担任の受け止め方に違いがあることがうかがえる。

Q15 先生の話を受かない

- 1 あてはまる                      2 どちらかといえはあてはまる
- 3 どちらかといえはあてはまらない                      4 あてはまらない
- 5 わからない



小担任では、「あてはまる」という回答が63.1%みられ、「どちらかといえはあてはまる」を合わせると9割を超え、肯定的な傾向といえる。否定的な回答は6.5%と少ない。

中担任では、「あてはまる」が56.2%、「どちらかといえはあてはまる」を合わせると9割近くあり、肯定的な傾向といえる。否定的な回答は約9%と少ない。

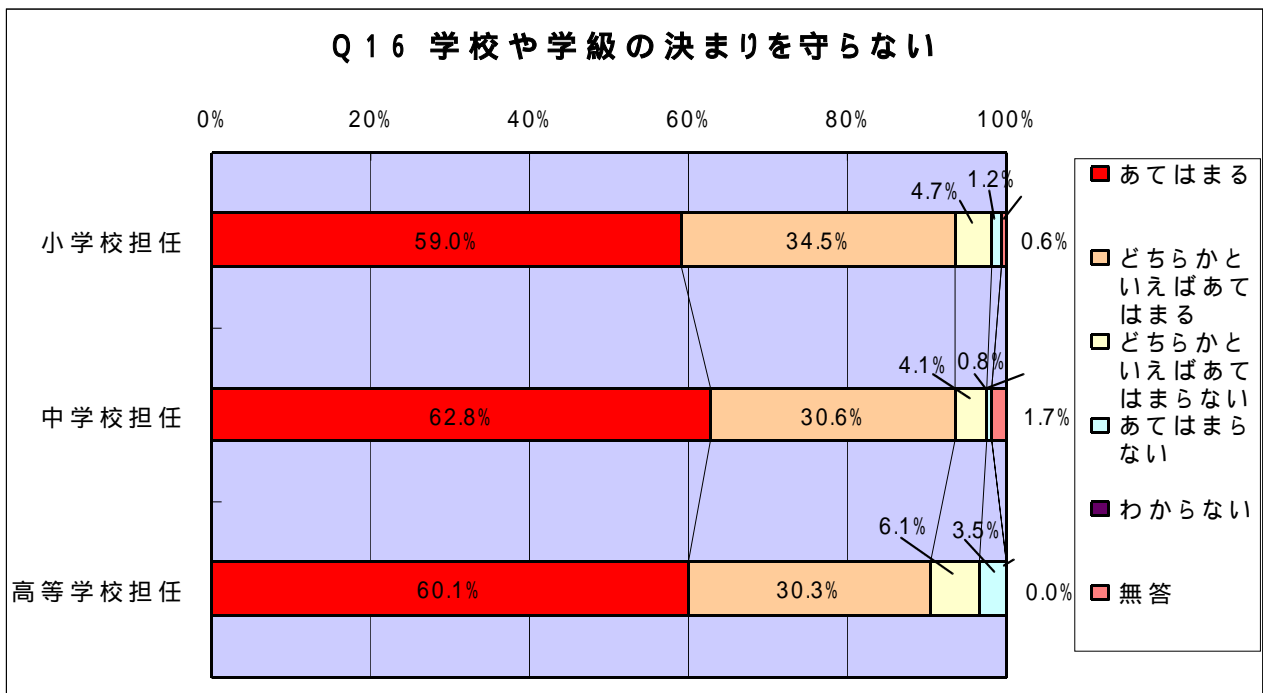
高担任では、「あてはまる」が56%、「どちらかといえはあてはまる」を合わせると約86%と高い割合を占める。一方、否定的な回答は約14%で、中担任より少し多い。

全体的に、肯定的な回答が9割前後と、肯定的な回答がほとんどである。否定的な回答は高保護者の約14%をはじめとして、さほど多くない。

「先生の話を受かない」という態度は、担任を無視することであり、学級の乱れの要因として考えている担任が多いことがうかがえる。

Q16 学校や学級の決まりを守らない

- 1 あてはまる                      2 どちらかといえばあてはまる  
 3 どちらかといえばあてはまらない                      4 あてはまらない  
 5 わからない



小担任では、「あてはまる」という回答が59%みられ、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると9割を超え、肯定的な傾向がみられる。否定的な回答は約6%程度と少ない。

中担任では、「あてはまる」が62.8%、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると9割を超え、小担任と同様に肯定的な傾向がみられる。否定的な回答は約5%と少ない。

高担任では、「あてはまる」が60.1%、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると9割を超え、高い割合を占める。一方、否定的な回答は9.6%で、中担任より少し多い。

全体的に、どの校種でも肯定的な回答が9割を超え、肯定的な回答が大半である。否定的な回答は高保護者の1割弱が目立つ程度である。

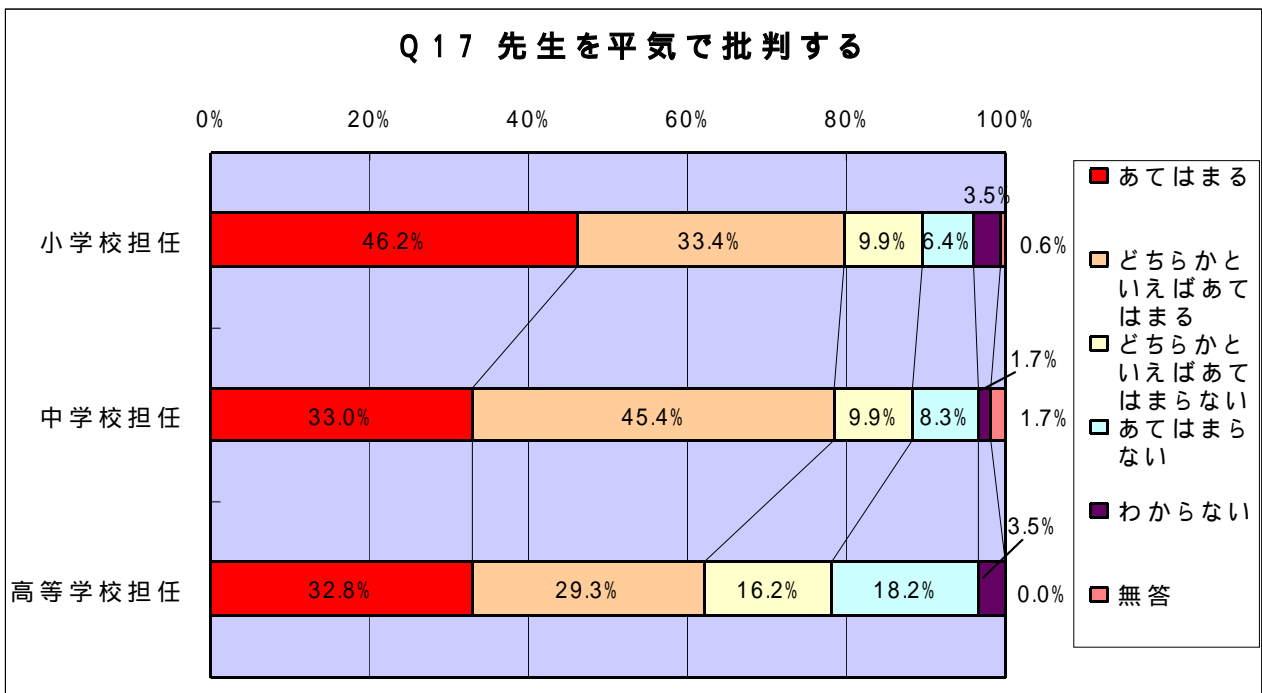
「学校や学級の決まりを守らない」という態度は、集団で活動することが多い学校生活において、共通のルールが守られないことであり、学級の乱れの要因として考えている担任が多いことがうかがえる。

参考：【関連資料：児童生徒Q30「先生や家族に注意されたことは必ず守ろうと思うか」  
 保護者Q30「子供と約束したり、注意したりすることがあるか」】



Q17 先生を平気で批判する

- 1 あてはまる                      2 どちらかといえばあてはまる
- 3 どちらかといえばあてはまらない                      4 あてはまらない
- 5 わからない



小担任では、「あてはまる」という回答が46.2%みられ、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると約8割となり、肯定的な傾向がみられる。否定的な回答は約15%程度である。

中担任では、「あてはまる」が33%、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると約78%と小担任の割合に近い。否定的な回答は約18%と小担任より少し多い。

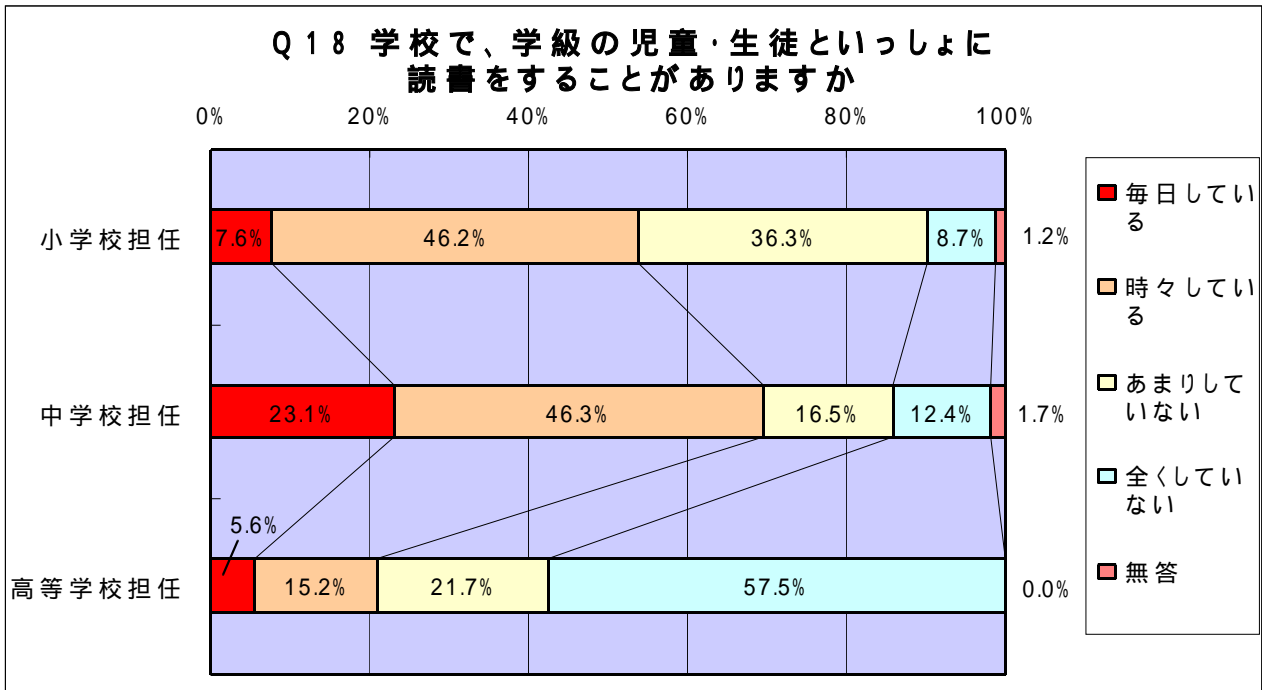
高担任では、「あてはまる」が32.8%、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると6割を超えるが、小・中担任と比較すると少ない。一方、否定的な回答は約34%と、中担任の2倍ほどである。

全体的に、小・中担任の回答では、8割程度が肯定的な回答をしているが、高担任では肯定的な回答が大幅に減少する。否定的な回答は高保護者が目立って多い。

「先生を平気で批判する」という態度は、批判の内容や状況にもよるが、小・中担任にとっては、学級の乱れを考える上での要因と位置づけ、一方、高担任にとってはそれほど該当すべき内容ではないと考えていることがうかがえる。

Q18 学校で、学級の児童生徒といっしょに読書をすることがありますか？

- 1 毎日している                      2 時々している                      3 あまりしていない  
4 全くしていない



小担任では、「毎日している」という回答が7.6%みられ、「時々している」を合わせると53.8%となり肯定的な回答が半数を超える。否定的な回答は45%みられ、回答が二つに分かれている。

中担任では、「毎日している」が23.1%、「時々している」を合わせると7割近い割合となり、肯定的な傾向がみられる。否定的な回答は約29%と小担任より大幅に少ない。

高担任では、「毎日している」が5.6%、「時々している」を合わせると約2割程度で、中担任の回答の1/3程度である。一方、否定的な回答は8割近く、その中で「全くしていない」という回答が57.5%と多くを占めている。

全体的な傾向として、中担任の7割近い肯定的な回答が目立っており、小担任の半数程度を大きく上回っている。一方、高担任の肯定的な回答の少なさとともに、「全くしていない」という回答の多さが目立っている。

「学級の児童生徒と一緒に読書をする」という取り組みについて、多くの中学校において、全校規模で時間の設定や確保が行われ、一緒に読書をしてることがうかがえる。小学校では、中学校ほど時間の設定や確保等が行われなくなっていること、高等学校ではさらに困難な状況にあることが伺える。児童生徒の読書活動の啓発等の意味も含めて、前向きな取り組みが望まれる。

参考：【関連資料：児童生徒Q13（盲聾養Q12）「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」】

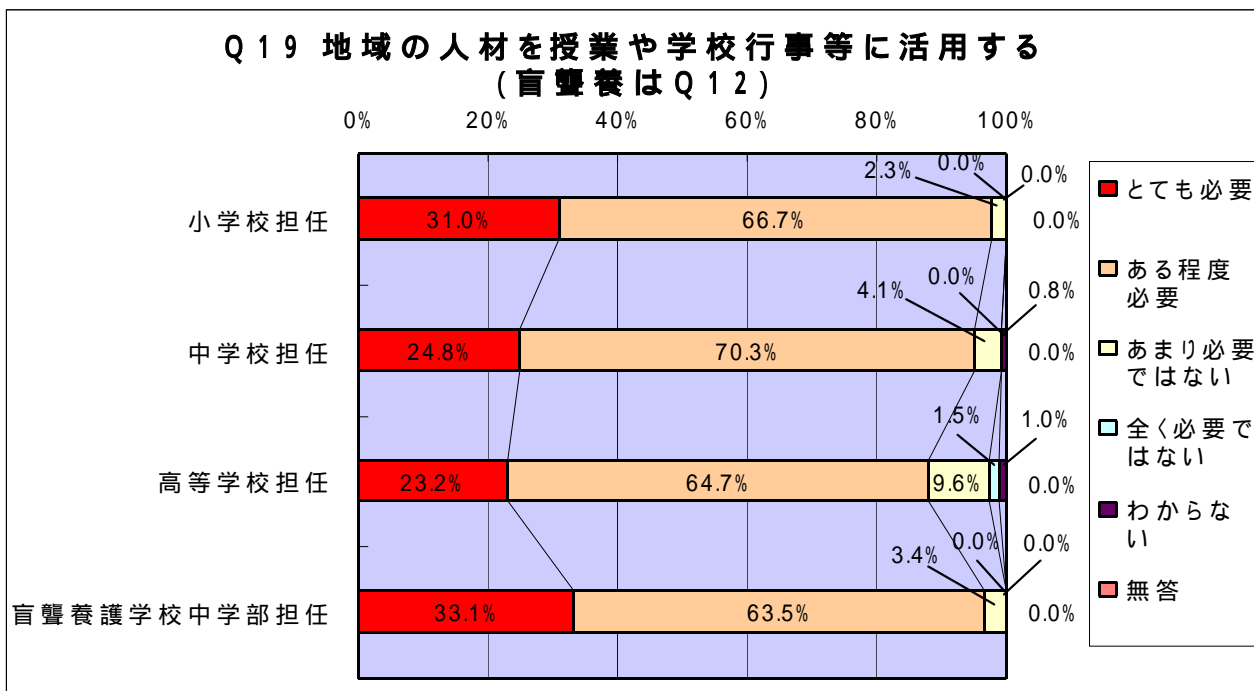
#### 4 「開かれた学校」について、次の質問にお答えください。

あなたは、「開かれた学校」について、次のような取り組みが、どの程度必要だと思いますか？

小・中・高・盲聾養

Q19 地域の人材を授業や学校行事などに活用する（盲聾養はQ12）

1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない



小担任では、「とても必要」という回答が31%、「ある程度必要」を合わせると97.7%と肯定的な回答が全体のほとんどを占める。否定的な回答は2.3%と非常に少ない。

中担任では、「とても必要」が24.8%、「ある程度必要」を合わせると95%を超え、高い割合となっている。否定的な回答は約4%と少ない。

高担任では、「とても必要」が23.2%、「ある程度必要」を合わせると87.9%で、中担任よりやや少ないが、肯定的な回答がほとんどである。否定的な回答は1割程度である。

盲聾養担任では、「とても必要」「ある程度必要」という回答を合わせると95%を超え、高い割合で肯定的な回答がみられる。

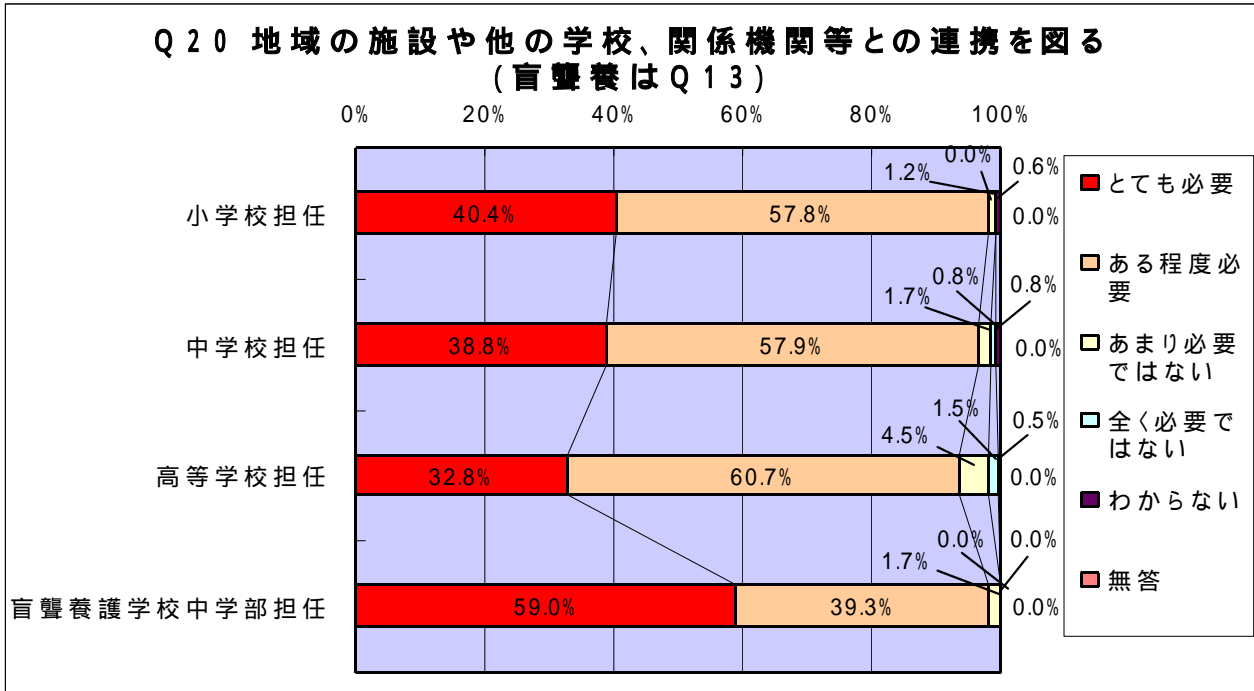
全体的な傾向として、高担任でやや低さがみられるが、8～9割が肯定的な回答となっている。

「地域の人材の授業等に活用する」という取り組みについて、どの校種の担任もその重要性や効果を認識していることがうかがえる。今後も積極的な活用及び連携等が望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q20 地域の施設や他の学校、関係機関等との連携を図る（盲聾養はQ13）

- 1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない



小担任では、「とても必要」という回答が40.4%、「ある程度必要」を合わせると98.2%と肯定的な回答が全体のほとんどを占める。否定的な回答は1.2%と非常に少ない。

中担任では、「とても必要」が38.8%、「ある程度必要」を合わせると95%を超え、高い割合となっている。否定的な回答は2.5%と少ない。

高担任では、「とても必要」が32.8%、「ある程度必要」を合わせると93.5%で、中担任よりやや少ないが、肯定的な回答がほとんどである。否定的な回答は6%である。

盲聾養担任では、「とても必要」という回答が59%と他の校種と比較して多い。「ある程度必要」という回答を合わせると98.3%と、非常に高い割合で肯定的な回答がみられる。

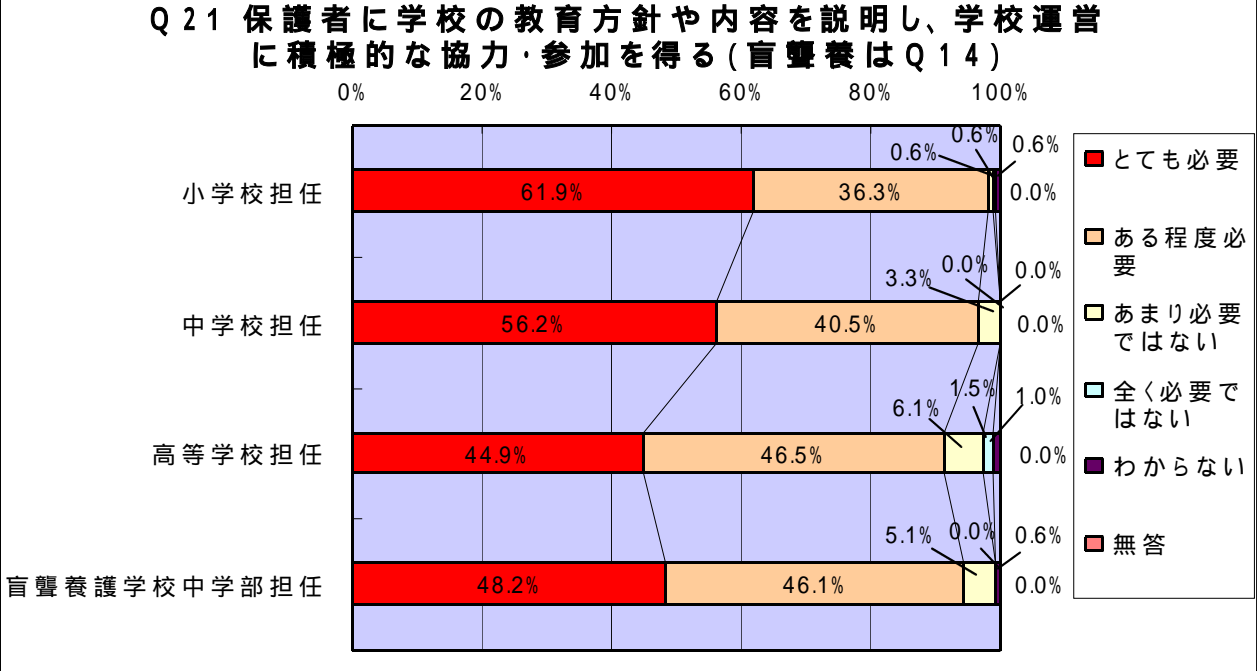
全体的な傾向として、9割を超える回答が肯定的な内容となっている。

「地域の施設や他の学校、関係機関等との連携を図る」という取り組みについて、どの校種の担任もその重要性や効果を認識していることが伺える。今後もさらに積極的な活用及び連携等が望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q21 保護者に学校の教育方針や内容を説明し、学校運営に積極的な協力・参加を得る  
(盲聾養はQ14)

- 1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない



小担任では、「とても必要」という回答が61.9%、「ある程度必要」を合わせると98.2%と肯定的な回答が全体のほとんどを占める。否定的な回答は1.2%と非常に少ない。

中担任では、「とても必要」が56.2%、「ある程度必要」を合わせると95%を超え、高い割合となっている。否定的な回答は3.3%と少ない。

高担任では、「とても必要」が44.9%、「ある程度必要」を合わせると91.4%で、肯定的な回答がほとんどである。否定的な回答は7.6%である。

盲聾養担任では、「とても必要」という回答が48.2%であり、「ある程度必要」という回答を合わせると94.3%と、高い割合で肯定的な回答がみられる。

全体的な傾向として、どの校種においても9割を超える回答が肯定的な内容である。

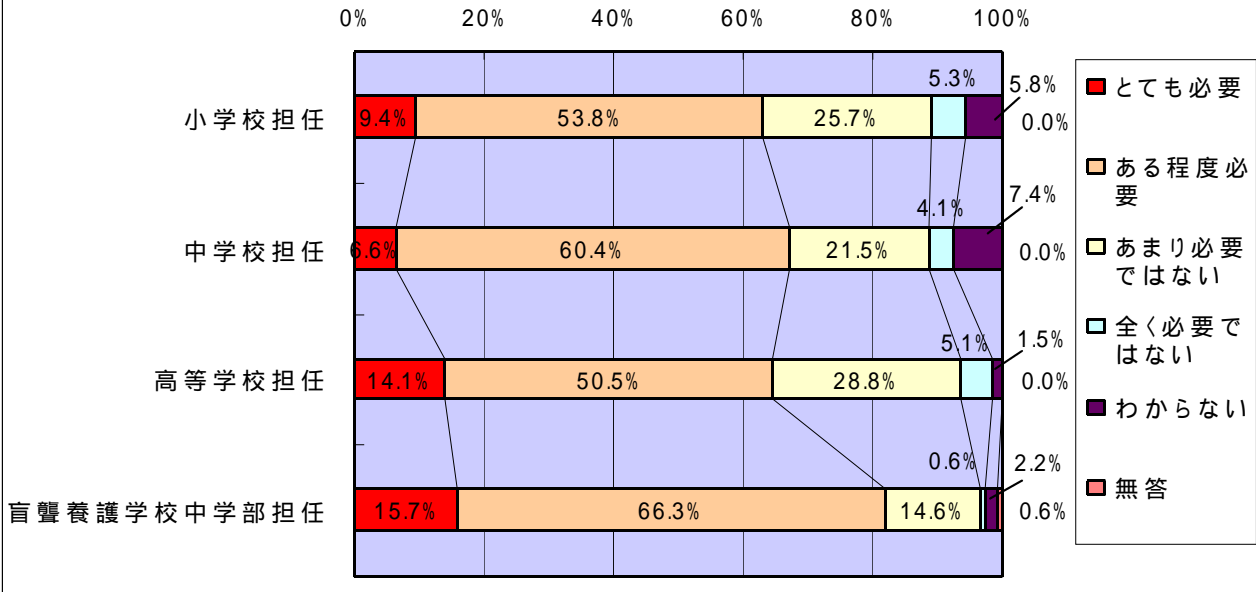
「保護者に学校運営に関して積極的な協力・参加を得る」という取り組みについて、どの校種の担任も「とても必要」と考えていることがうかがえる。今後もさらに説明責任を果たしていくとともに、保護者の積極的な学校運営への参画に取り組んでいくことが望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q22 教員が地域社会の活動に、指導者や協力者として参加する（盲聾養はQ15）

- 1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない

Q 2 2 教員が地域社会の活動に、指導者や協力者として参加する（盲聾養はQ15）



小担任では、「とても必要」という回答が9.4%、「ある程度必要」を合わせると63.2%と肯定的な回答が半数を超えるが、否定的な回答も3割を超えている。

中担任では、「とても必要」が6.6%、「ある程度必要」を合わせると67%と全体の2/3を超えているが、否定的な回答も25%を超えている。

高担任では、「とても必要」が14.1%、「ある程度必要」を合わせると64.6%で、肯定的な回答がほとんどである。否定的な回答は約34%で、他の校種と比較して多くなっている。

盲聾養担任では、「とても必要」という回答が15.7%であり、「ある程度必要」という回答を合わせると8割を超え、高い割合で肯定的な回答がみられる。

全体的な傾向として、肯定的な回答が8割を超える盲聾養担任を始め、肯定的な傾向にあるといえるが、「とても必要」という回答の割合が、これまでのQ19～21の設問に比べて少ない。

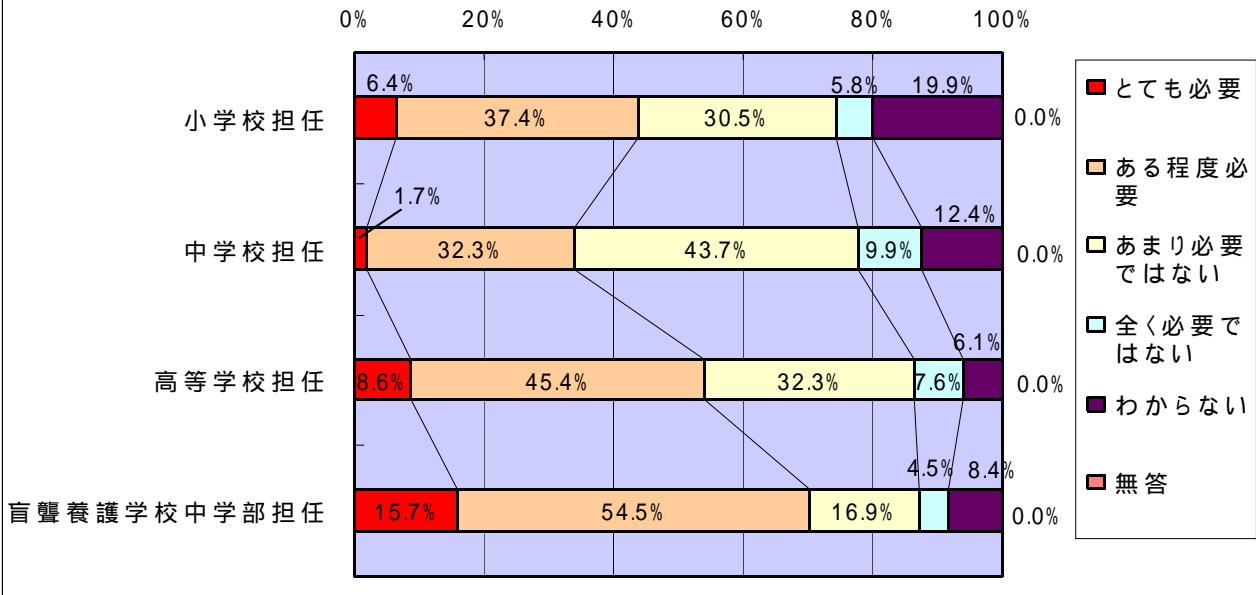
「教員が地域の活動に指導者や協力者として参加する」という取り組みについて、必要性は認めているが、重要な要件とは認識していない傾向にあることがうかがえる。地域連携の中で、双方向の交流が果たす意義や効果について、今後考えていくことが望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q23 学校経営等に参画する学校評議員のような制度を導入する（盲聾養はQ16）

- 1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない

Q 23 学校経営等に参画する学校評議員のような制度を導入する（盲聾養はQ16）



小担任では、「とても必要」という回答が6.4%、「ある程度必要」を合わせると43.8%である。否定的な回答は3割を超え、「わからない」という回答も2割近くみられる。

中担任では、「とても必要」が1.7%、「ある程度必要」を合わせると34%と全体の1/3程度であり、否定的な回答が50%を超えている。「わからない」が12.4%みられる。

高担任では、「とても必要」が8.6%、「ある程度必要」を合わせると54%で、肯定的な回答が半数を超えるが、否定的な回答は4割近くみられる。

盲聾養担任では、「とても必要」という回答が15.7%であり、「ある程度必要」という回答を合わせると7割を超え、高い割合で肯定的な回答がみられる。否定的な回答は2割ほどみられる。

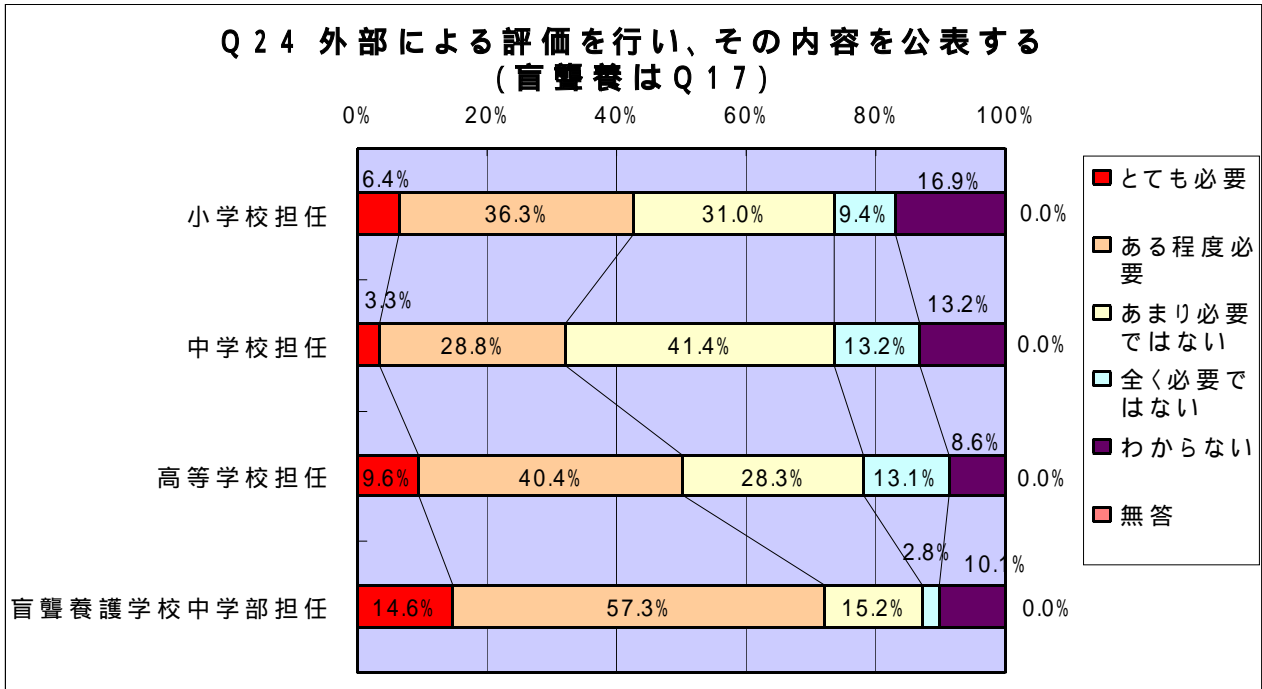
全体的な傾向として、肯定的な回答は、盲聾養担任の回答が7割を超えているが、高担任では半数を超える程度、中担任では否定的な回答が上回り、小担任では肯定否定にそれほど差がない。「わからない」という回答も小・中担任に目立つ。

「学校評議員のような制度の導入」について、校種により、その必要性に対する意識の差が大きい。「わからない」という回答について、その理由について把握しておくことが望まれる。また、以前よりこのような制度を導入している学校や、その効果的な運用に係る課題に対して現在に取り組んでいる学校等、学校の特性や事情の違いが想定されることから、職員の共通理解のもと、着実な推進を図っていくことが求められる。

小・中・高・盲聾養

Q24 外部による評価を行い、その内容を公表する（盲聾養はQ17）

- 1 とても必要                      2 ある程度必要                      3 あまり必要ではない  
4 全く必要ではない              5 わからない



小担任では、「とても必要」という回答が6.4%、「ある程度必要」を合わせると42.7%である。否定的な回答は4割を超え、「わからない」という回答も約17%近くみられる。

中担任では、「とても必要」が3.3%、「ある程度必要」を合わせると約32%で全体の1/3程度である。否定的な回答が54.6%みられ、「わからない」も約13%程度みられる。

高担任では、「とても必要」が9.6%、「ある程度必要」を合わせると50%である。否定的な回答は4割を超える。

盲聾養担任では、「とても必要」という回答が14.6%であり、「ある程度必要」という回答を合わせると7割を超え、高い割合で肯定的な回答がみられる。否定的な回答は2割弱である。

全体的な傾向は、前問Q23と似た傾向である。肯定的な回答は、盲聾養担任の回答が7割を超えているが、高担任では、半数を超える程度、中担任では肯定的な回答が3割程度で否定的な回答が上回り、小担任では、肯定否定にそれほど差がない。

「外部による評価とその公開」について、校種により、その必要性に対する意識の差が大きい。公開の必要性について、その効果等を様々な角度から検討し、共通理解のもとで進められるようにし、「わからない」という回答を少なくするとともに、着実な効果が積み重ねられていくような公開を押し進めていくことが求められる。



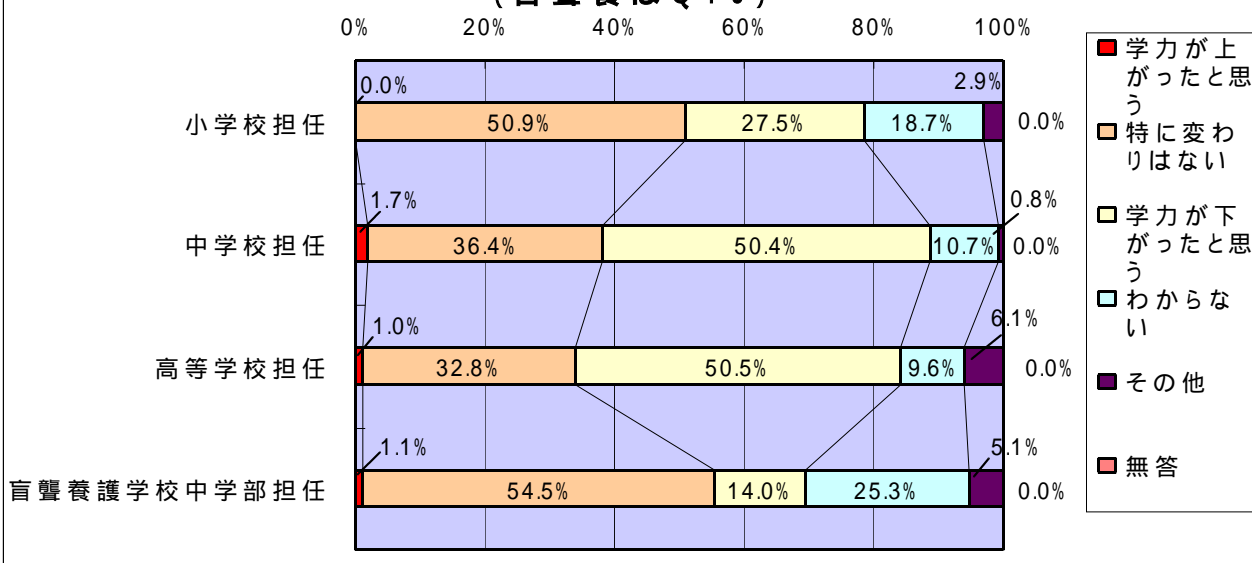
## 5 児童生徒の学力について、次の質問にお答えください。

### 小・中・高・盲聾養

Q25 完全学校週5日制等による学力への影響について、いろいろな論議がなされていますが、あなたの学級の児童生徒の実態について、どう感じていますか？なお、あてはまるものがない場合は、その内容を「5 その他の内容」に簡単に書きましょう。（盲聾養はQ18）

- 1 学力が上がったと思う      2 特に変わりはない      3 学力が下がったと思う  
4 わからない                      5 その他（                      ）

### Q25 完全学校週5日制等による学力への影響について、 学級の児童・生徒をみて、どう感じていますか (盲聾養はQ18)



小担任では、「上がったと思う」という回答がなく、「特に変わりはない」という回答が約半数である。「下がったと思う」という否定的な回答は27.5%、「わからない」という回答も18.7%もみられる。（その他：「ゆとりがない」等）

中担任では、「上がったと思う」が1.7%、「特に変わりはない」が36.4%で、合わせても4割に満たない。否定的な回答が50.4%と全体の半数である。「わからない」も約11%程度みられる。（その他：「比較できない」「学習指導要領の影響もある」等）

高担任では、「上がったと思う」が1%、「特に変わりはない」が32.8%で、中担任の割合より少し低い。否定的な回答は全体の半数みられる。（その他：「実質週6日である」「家庭学習時間と量が減った」等）

盲聾養担任では、「上がったと思う」という回答が1.1%であり、「特に変わりはない」という回答が54.5%と高い割合である。否定的な回答は14%と少ないが、「わからない」という回答が全体の1/4程度みられる。（その他：「ゆとりがない」「親子のふれあう時間が増えた」等）

全体的な傾向は、「上がったと思う」という回答は1～2%程度で、「特に変わりはない」という回答が小・盲聾養担任に多く、中・校担任では「下がったと思う」という回答が多くなっている。校種により対照的な回答となっている。

「5日制等による学力への影響」について、校種により、違いがみられることから、5日制等のどのような要因があげられるか、具体的に検討し、効果的な対策を講じていくことが求められる。

参考：【関連資料：保護者Q10「基礎的な学力をつけるための学習指導に満足しているか」  
Q19「5日制等による学力への影響についてどう感じているか」】

## 6 仕事における悩みについて、次の質問にお答えください。

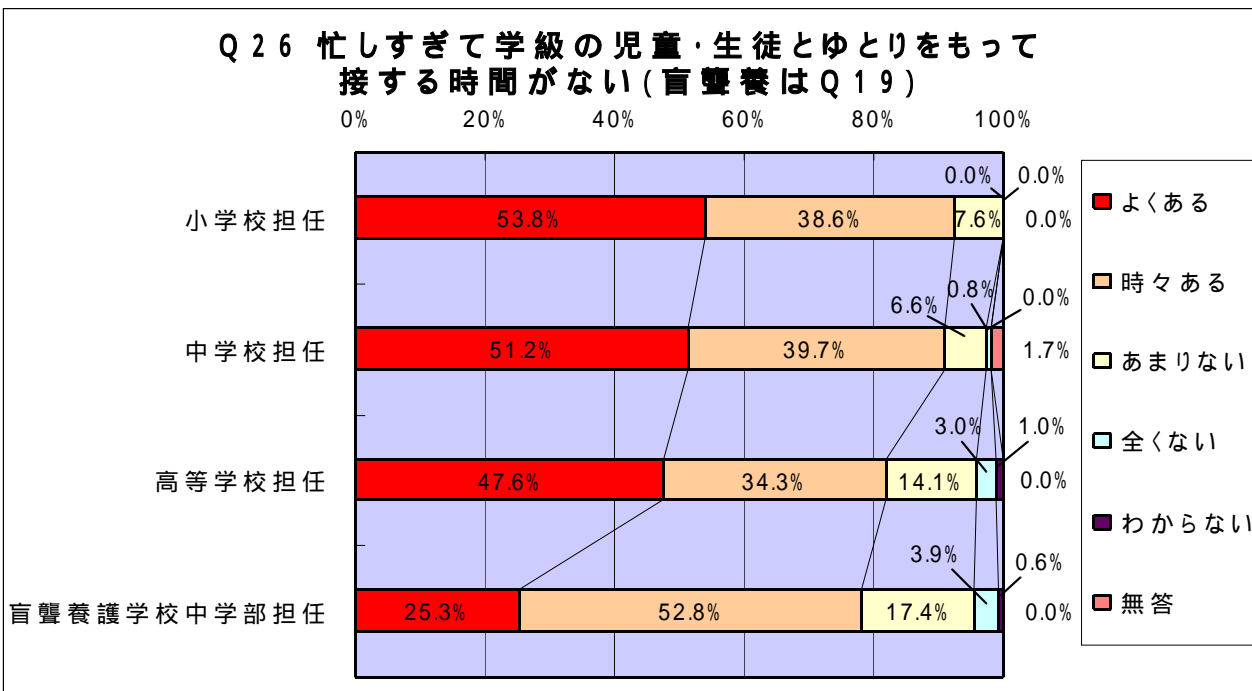
あなたは、ふだんの仕事をとおして、次のように感じることはありますか？

小・中・高・盲聾養

Q26 忙しすぎて学級の児童生徒とゆとりをもって接する時間がない（盲聾養はQ19）

1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない

4 全くない                      5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が53.8%、「時々ある」を合わせると92.4%で、ほとんどが肯定的な回答である。否定的な回答は7.6%である。

中担任では、「よくある」が51.2%、「時々ある」を合わせると90.9%で、小担任と同様に肯定的な回答が9割を超える。否定的な回答は7.4%と少ない。

高担任では、「よくある」が47.6%、「時々ある」を合わせると81.9%で、おおむね肯定的な回答である。否定的な回答は17.1%と小・中担任よりやや多い。

盲聾養担任では、「よくある」という回答が25.3%であり、「時々ある」という回答を合わせると78.1%と高い割合で肯定的な回答がみられる。否定的な回答は2割を超える。

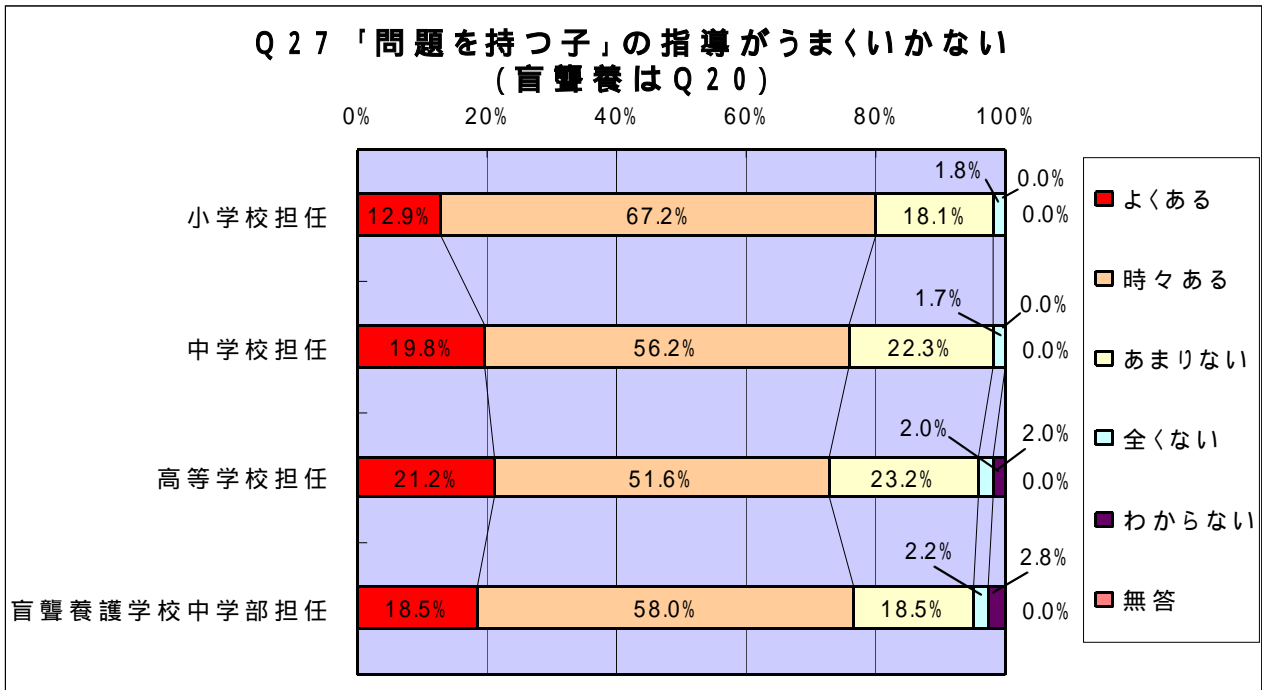
全体的な傾向は、8～9割が肯定的な回答である。小・中・高担任では、肯定的な回答のうち、「よくある」という回答が「時々ある」を上回っているが、盲聾養担任では、「時々ある」という回答の方が上回っている。

「忙しすぎて学級の児童生徒とゆとりをもって接する時間がない」と感じる傾向は、校種に関わらず高い割合を示していることから、その「忙しい」と感じる要因について明らかにしていくとともに、改善の方策を検討していくことが求められる。

小・中・高・盲聾養

Q27 「問題を持つ子」の指導がうまくいかない(盲聾養はQ20)

- 1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない  
4 全くない                      5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が12.9%、「時々ある」を合わせると80.1%で、ほとんどが肯定的な回答である。否定的な回答は約2割である。

中担任では、「よくある」が19.8%、「時々ある」を合わせると76%で、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答は24%と全体の約1/4に近い。

高担任では、「よくある」が21.2%、「時々ある」を合わせると72.8%で、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答は25.2%と全体の1/4%を超える。

盲聾養担任では、「よくある」という回答が18.5%であり、「時々ある」という回答を合わせると76.5%と高い割合で肯定的な回答がみられる。否定的な回答は2割を超える。

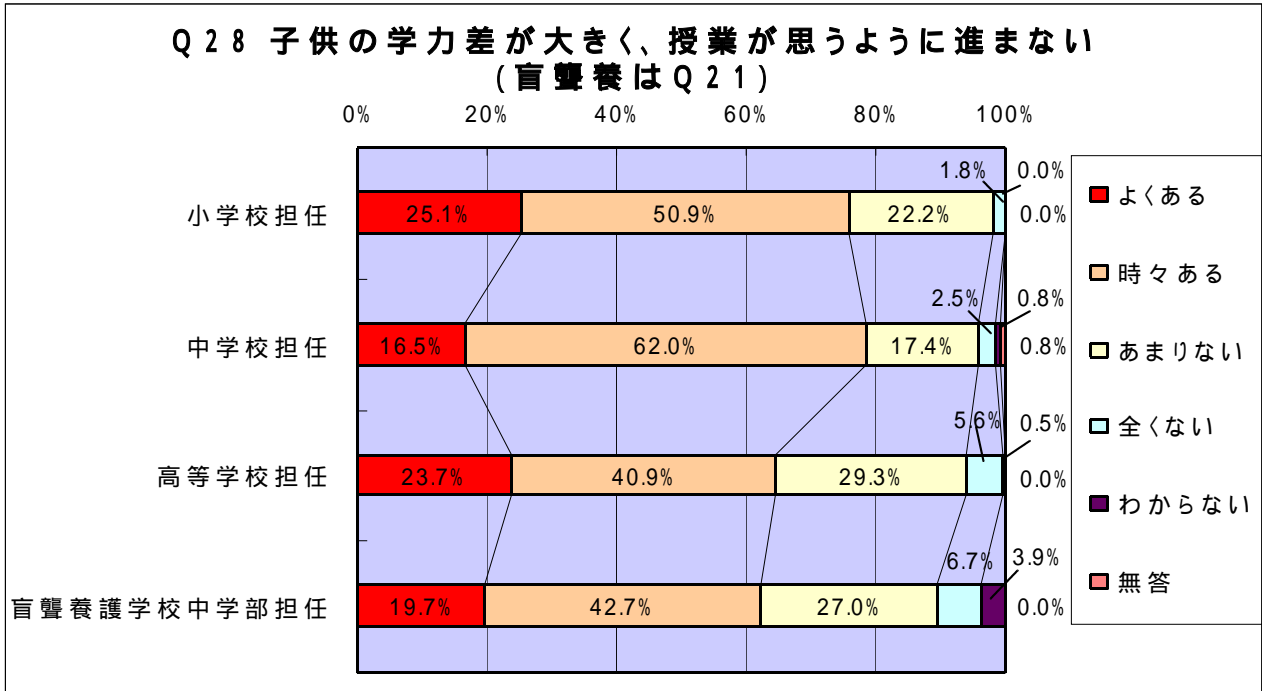
全体的な傾向として、7～8割が肯定的な回答である。否定的な回答が高担任の25.2%をはじめ2割前後の割合でみられる。

『問題を持つ子』の指導がうまくいかない」と感じる傾向は、校種に関わらず7～8割の高い割合を示していることから、その悩みを解決するための手だて、例えば校内組織や協力・支援体制等を、再確認するとともに、職員間における気軽に相談しあえる雰囲気づくり等をとおして、悩みを抱え込まないような配慮をしていくことが望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q28 子どもの学力差が大きく、授業が思うように進まない（盲聾養はQ21）

- 1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない  
4 全くない                      5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が25.1%、「時々ある」を合わせると76%で、ほとんどが全体の3/4が肯定的な回答である。否定的な回答は24%みられる。

中担任では、「よくある」が16.5%、「時々ある」を合わせると78.5%で、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答は約2割である。

高担任では、「よくある」が23.7%、「時々ある」を合わせると64.6%で、おおむね肯定的な傾向である。否定的な回答は約35%と比較的多い割合となっている。

盲聾養担任では、「よくある」という回答が19.7%であり、「時々ある」という回答を合わせると62.4%とおおむね肯定的な傾向である。否定的な回答は3割を超える。

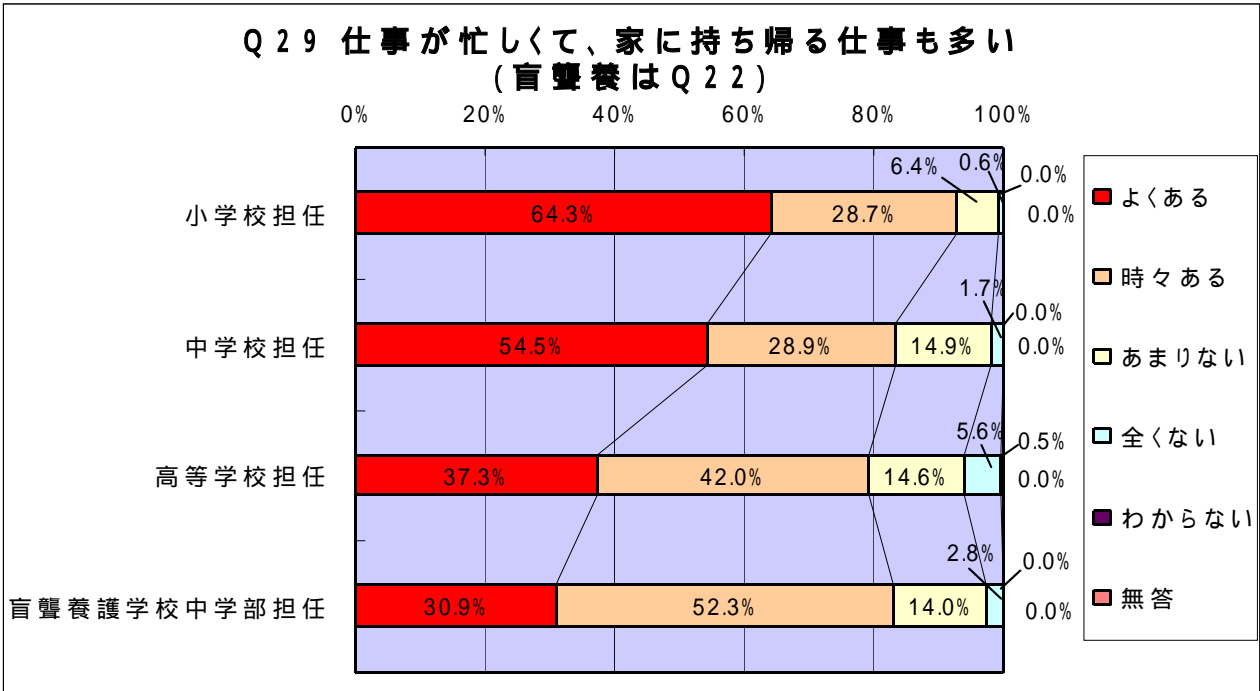
全体的な傾向として、肯定的な回答が、小・中担任は8割近いが、高・盲聾養担任は6割程度である。それとともに、高・盲聾養担任は否定的な回答が3割を超え、比較的高い割合となっている。

「子どもの学力差が大きく、授業が思うように進まない」と感じる傾向は、小・中学校の担任に多くみられる一方で、高等学校やカリキュラムに特徴がある盲聾養護学校では、それほど高い割合になっていない。本県の教育課題の一つである学力向上について、特に小・中学校を中心として、基礎学力の定着を図る取り組みをさらに充実させていくことが望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q29 仕事が忙しくて、家に持ち帰る仕事も多い（盲聾養はQ22）

- 1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない  
4 全くない                      5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が64.3%と半数を超え、「時々ある」を合わせると93%で、ほとんどが肯定的な回答である。

中担任では、「よくある」が54.5%、「時々ある」を合わせると83.4%で、肯定的な傾向が多い。否定的な回答は15%程度である。

高担任では、「よくある」が37.3%、「時々ある」を合わせると約8割で、肯定的な傾向が多い。否定的な回答は2割を超え、中担任より多い割合となっている。

盲聾養担任では、「よくある」という回答が30.9%であり、「時々ある」という回答を合わせると8割を超え、肯定的な傾向が目立つ。否定的な回答は約17%である。

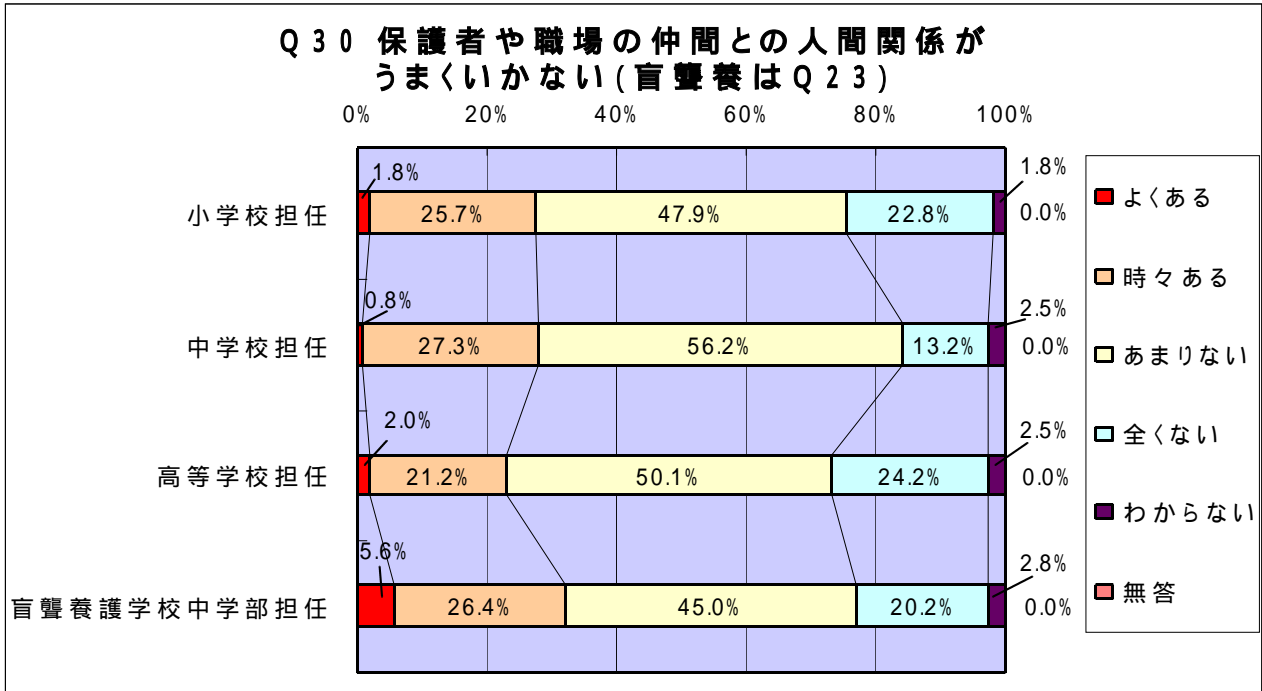
全体的な傾向として、肯定的な回答が8～9割を占めるが、否定的な回答は、小担任を除き、中・高・盲聾養担任の約15～20%を占めて比較的多い。

「仕事が忙しくて、家に持ち帰る仕事も多い」と感じる傾向は、校種にかかわらず、軒並み8割を超え、肯定的な回答が多くを占める。「仕事が忙しい」と感じる要因や内容などについて考えていくとともに、職員間のフォローの在り方や組織としてどのような改善が可能か等、広い視野で考えていくことが望まれる。

小・中・高・盲聾養

Q30 保護者や職場の仲間との人間関係がうまくいかない(盲聾養はQ23)

- 1 よくある                      2 時々ある                      3 あまりない  
4 全くない                      5 わからない



小担任では、「よくある」という回答が1.8%と非常に少なく、「時々ある」を合わせると27.5%である。否定的な回答は7割を超えている。

中担任では、「よくある」が0.8%、「時々ある」を合わせると27.1%である。一方、否定的な回答は7割近く、多い割合となっている。

高担任では、「よくある」が2%、「時々ある」を合わせると約23%であるのに対して、否定的な回答は74.3%で、全体のほぼ3/4にのぼる。

盲聾養担任では、「よくある」という回答が5.6%であり、「時々ある」という回答を合わせると32%になる。一方、否定的な回答は約65%である。

全体的な傾向として、肯定的な回答が3割前後と少ない割合となっている一方、否定的な回答は約7割と高い割合となっている。

「保護者や職場の仲間との人間関係がうまくいかない」と感じる傾向は、校種にかかわらず否定的な回答が多いことから、この内容で悩む担任はそう多くないことがうかがえる。今後は、各校種にみられる2~3割の悩みを持つことのある担任について、職場の仲間や校内体制等においてどのように援助し解決につなげていくか考えていくことが望まれる。